

マークをクリックするとそのページを見ることができます



発生動向総覧  
P.2-4

< 第14週 > 水痘の定点当たり報告数は減少したが、過去5年間の同時期と比較してやや多い / その他最新動向



注目すべき感染症  
P.5-7

< 咽頭結膜熱 >

2006年は第3週以降、過去10年間と比較して最も報告の多い状態が続いている



病原体情報  
P.8-11

冬季の感染性胃腸炎関連ウイルス 2005/06シーズン / インフルエンザウイルス 2005/06シーズン



速報  
P.12-16

デング熱 1999年4月～2006年第12週(2006年3月31日現在)



海外感染症情報

< 今週は該当記事はありません >



感染症の話  
P.17-19

< サル痘 >

サル痘ウイルス感染による急性発疹性疾患で、ヒトのサル痘での致死率は1～10%程度である



読者のコーナー  
< 今週は該当記事はありません >



グラフ総覧(14週)  
P.20-26



14週のデータ  
P.27-38



## 発生動向総覧

2006年4月からの報告システムの変更に伴い、疾病の並び順を一部変更しました。

### < 第14週コメント > 4月14日集計分

#### 全数報告の感染症

注意:これは当該週に診断された報告症例の集計です。しかし、迅速に情報還元するために期日を決めて集計を行いますので、当該週に診断された症例の報告が集計の期日以降に届くこともあります。それらについては発生動向総覧では扱いませんが、翌週あるいはそれ以降に、巻末の表の累積数に加えられることとなります。宜しく御理解下さい。

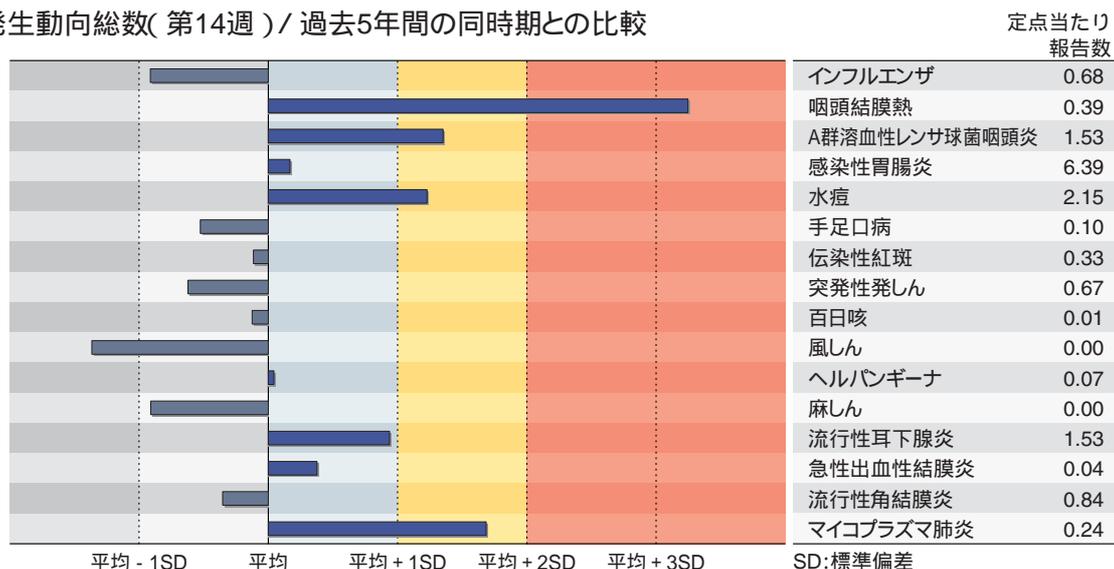
感染経路、感染原因、感染地域については、確定あるいは推定として記載されていたものを示します。

- 1類感染症: 報告なし
  - 2類感染症: コレラ 1例(感染地域: インド)
    - 細菌性赤痢 9例
      - (感染地域: 国内1例、インド6例、ネパール1例、ラオス1例)
    - 腸チフス 1例(疑似症)
  - 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症 6例(うち有症者4例)
    - 血清型・毒素型: O157 VT1・VT2(3例)、O157 VT2(2例)、O26 VT1(1例)
  - 4類感染症: E型肝炎 3例
    - (感染地域: すべて国内、感染源: イノシシレバー1例、不明2例)
    - A型肝炎 10例(感染地域: 国内8例、中国1例、フィリピン1例)
    - エキノкокクス症 1例(多包条虫 .北海道)
    - デング熱 2例
      - (デング熱1例\_\_感染地域: タイ、デング出血熱1例\_\_感染地域: モルディブ)
    - マラリア 1例(熱帯熱\_\_感染地域: ケニア)
    - レジオネラ症 5例
      - [ポンティアック型1例(70代)、肺炎型4例(20代1例、60代2例、90代1例)]
  - 5類感染症: アメーバ赤痢 7例(腸管アメーバ症5例、腸管外アメーバ症2例)
    - 感染地域: 国内6例、オーストラリア1例
    - 感染経路: 経口4例、性的接触2例(異性間/同性間1例、同性間1例)、不明1例
    - ウイルス性肝炎 1例[B型\_\_感染経路: 性的接触(異性間)]
    - 急性脳炎 1例[病原体不明(10代)]
    - クロイツフェルト・ヤコブ病 2例
      - [ともに孤発性プリオン病(古典型)]
    - 後天性免疫不全症候群 15例(無症候9例、AIDS 5例、その他1例)
      - 感染経路: 性的接触13例(異性間3例、同性間9例、不明1例)、不明2例
      - 感染地域: 国内13例、タイ1例、不明1例
    - 梅毒 10例
      - (早期顕症I期3例、早期顕症II期4例、晩期顕症1例、無症候2例)
    - 破傷風 2例(ともに50代)
- (補)他に、報告遅れとしてE型肝炎1例(感染地域: 国内、感染原因: 不明)の報告があった。

## 定点把握の対象となる5類感染症

全国の指定された医療機関(定点)から報告され、疾患により小児科定点(約3,000カ所)、インフルエンザ(小児科・内科)定点(約5,000カ所)、眼科定点(約600カ所)、基幹定点(約500カ所)に分かれています。また、定点当たり報告数は、報告数/定点医療機関数です。

発生動向総数(第14週)/過去5年間の同時期との比較



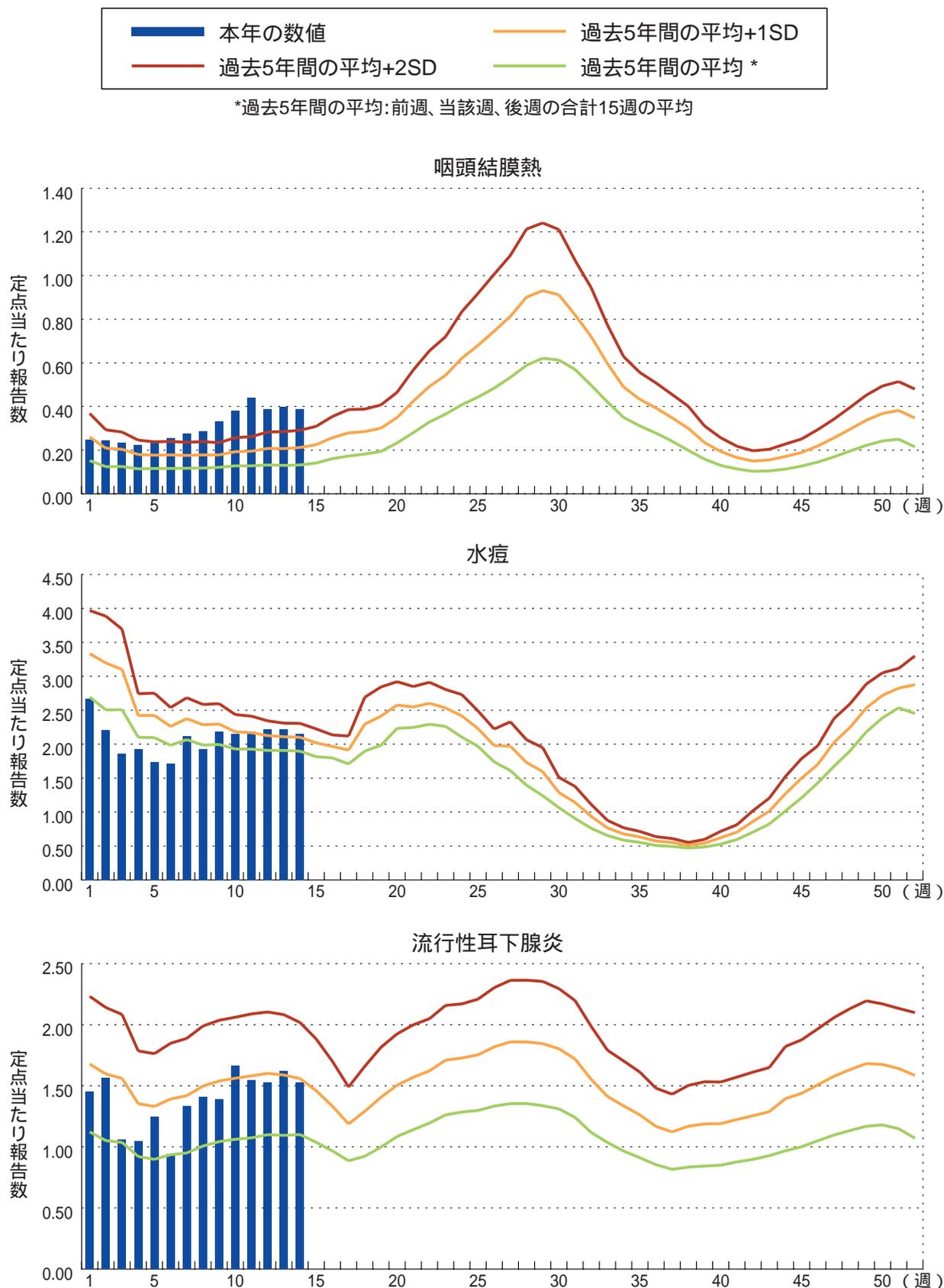
当該週と過去5年間の平均(過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均)との差をグラフ上に表現した。

**インフルエンザ**: 定点当たり報告数は減少が続き、1.0以下となった。都道府県別では高知県(3.1)、新潟県(2.9)、青森県(2.7)が多い。

**小児科定点報告疾患**: RSウイルス感染症は229例の報告があり、報告数は減少した。年齢別では、1歳以下の報告数が全体の約70%を占めている。咽頭結膜熱の定点当たり報告数は微減したが、過去5年間の同時期(前週、当該週、後週)と比較してかなり多い。都道府県別では福井県(2.1)、岐阜県(1.4)、兵庫県(1.1)、鹿児島県(1.1)が多い。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は第11週以降、減少が続いているが、過去5年間の同時期と比較してやや多い。都道府県別では鳥取県(4.4)、石川県(3.6)、新潟県(3.1)が多い。感染性胃腸炎の定点当たり報告数は第11週以降、減少が続いている。都道府県別では宮崎県(18.3)、大分県(12.6)、高知県(12.3)が多い。水痘の定点当たり報告数は減少したが、過去5年間の同時期と比較してやや多い。都道府県別では沖縄県(4.5)、佐賀県(4.3)、宮崎県(4.1)が多い。手足口病の定点当たり報告数は増加した。都道府県別では愛知県(0.41)、岐阜県(0.40)、宮城県(0.28)が多い。伝染性紅斑の定点当たり報告数は増加した。都道府県別では熊本県(1.3)、福島県(1.2)、島根県(1.1)が多い。百日咳の定点当たり報告数は減少した。都道府県別では千葉県(0.05)、福岡県(0.05)が多い。風しんの定点当たり報告数は微減した。都道府県別では青森県(0.05)、高知県(0.03)が多い。ヘルパンギーナの定点当たり報告数は微増した。都道府県別では熊本県(0.40)、鳥取県(0.37)、山口県(0.27)が多い。麻しんの定点当たり報告数は微減した。都道府県別では栃木県(0.04)、岐阜県(0.04)が多い。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は減少した。都道府県別では鹿児島県(4.8)、山口県(4.5)、長野県(3.6)が多い。

**基幹定点報告疾患**: マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は減少したが、過去5年間の同時期と比較してやや多い。都道府県別では群馬県(1.1)、大阪府(1.1)、茨城県(1.0)が多い。

図. 主要定点把握疾患の過去5年間との週別比較( 2006年第1 ~ 14週 )  
 青のバーで示す本年の定点当たり報告数が赤のラインを超えているときには、過去5年間の週と比較してかなり多いことを示す。





# 注目すべき感染症

## 咽頭結膜熱

咽頭結膜熱は主に、アデノウイルス3型（他に1、4、7、14型など）に感染することによって生じる咽頭炎、結膜炎を主とする急性ウイルス性感染症である。主な症状は39前後の発熱、頭痛、咽頭痛、結膜炎に伴う結膜充血、眼痛、羞明、流涙、眼脂などである。感染経路は主に飛沫感染、接触感染であるが、感染力は強く、タオルなどの患者が触れた物、検査器具、患者本人や医療従事者の手指などを介して容易に感染する。通常、潜伏期が5～7日、有症状期間が3～5日であるが、症状消失後も1カ月程度は尿・便中にウイルスが排出されると言われている。本疾患は別名プール熱とも呼ばれているように、例年夏季に発生のピークがある。

2006年は第3週以降、過去10年間と比較して最も報告の多い状態が続いている（図1、図2）。第14週の定点当たり報告数は全国レベルで0.39であり（報告数1,166）都道府県別では福井県（2.09）、岐阜県（1.40）、兵庫県（1.08）、鹿児島県（1.05）、香川県（0.97）の順である。第1～14週の定点当たり累積報告数は、全国レベルで3.94であり（累積報告数は13,099）都道府県別では福井県（16.2）、島根県（13.2）、岐阜県（12.9）、佐賀県（12.5）、鹿児島県（10.1）が多い（図3）。

年齢別では、例年5歳以下が全体の70%以上を占めて発生の中心であり、9歳までが90%以上を占めているが（図4）これは2006年も同様である（図5）。

咽頭結膜熱は今後、夏季に向けてさらに発生が増加すると考えられるので、その発生動向には注意が必要である。

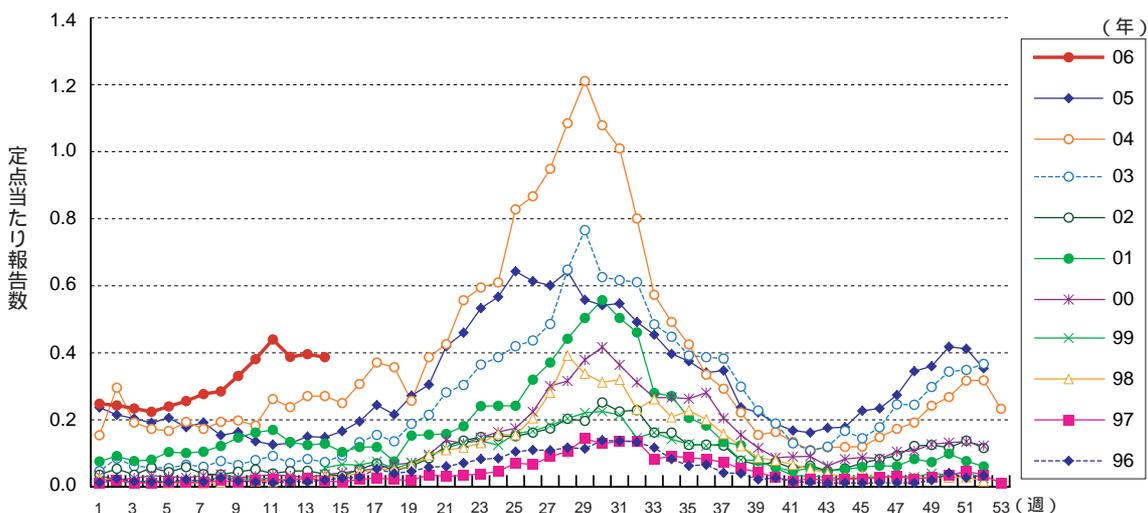


図1. 咽頭結膜熱の年別・週別発生状況(1996年～2006年第14週)

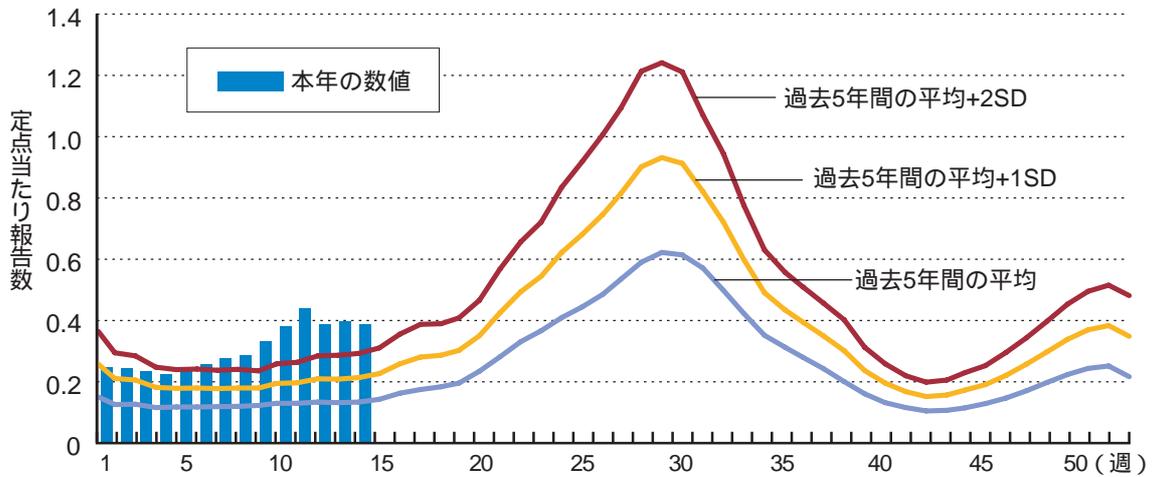


図2. 咽頭結膜熱の発生状況の過去5年間との比較 (2006年第14週現在)

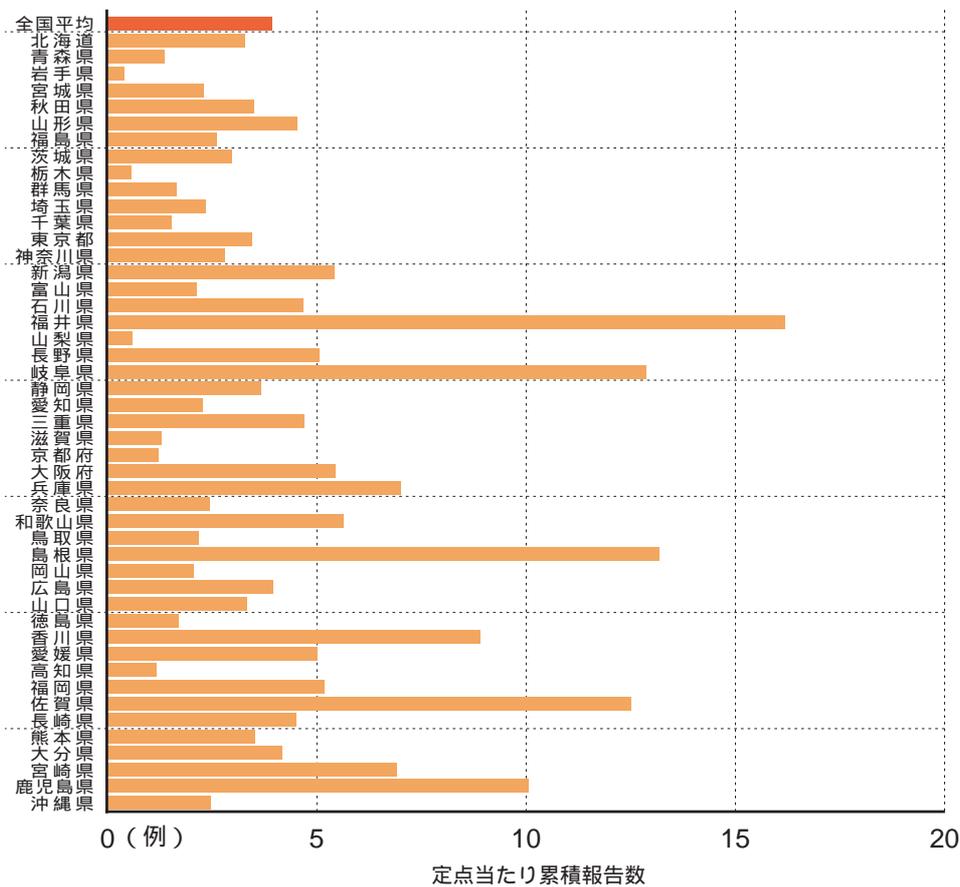


図3. 咽頭結膜熱の都道府県別報告状況 (2006年1~14週)

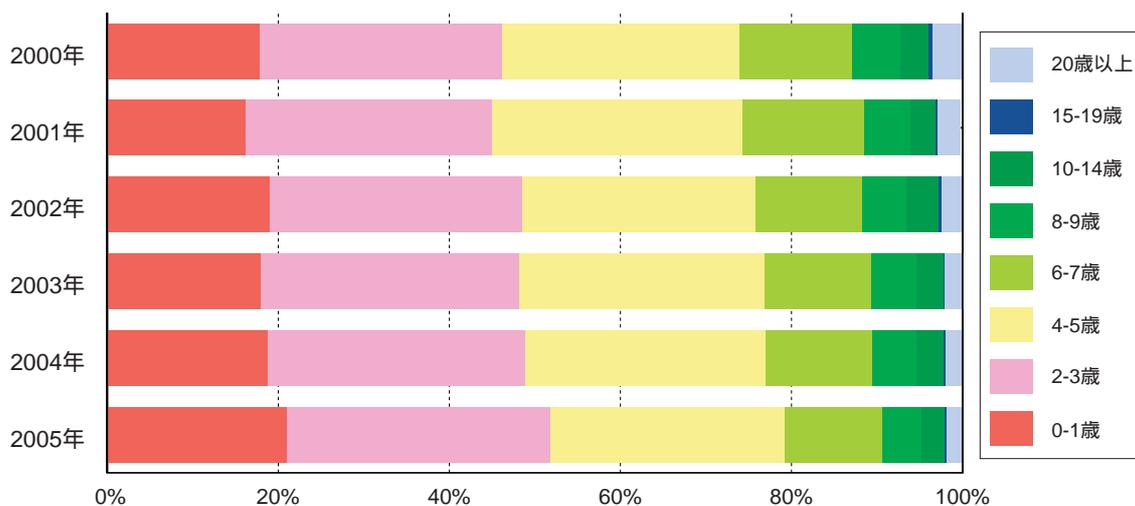


図4. 咽頭結膜熱の報告症例の年齢群別割合(2000～2005年)

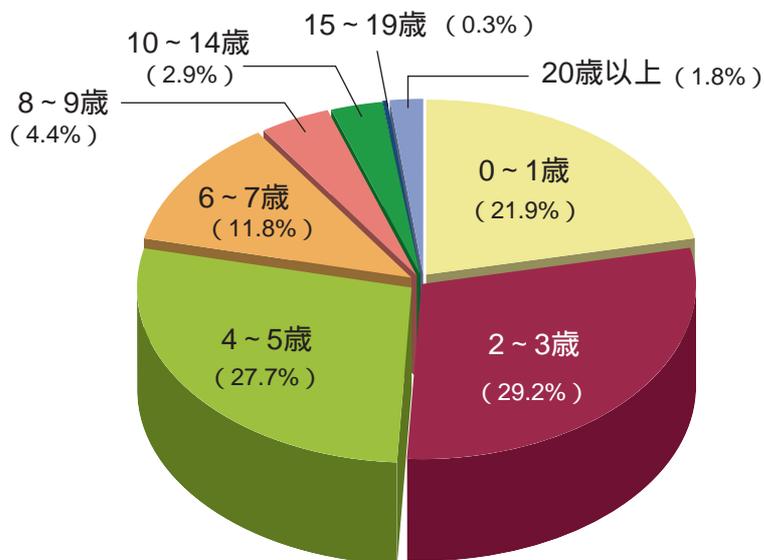


図5. 咽頭結膜熱の報告症例の年齢群別割合(2006年第1～14週)



## 病原体情報

\* グラフはIASRホームページ( <http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html> )からの引用です。

各都道府県市の地方衛生研究所(地研)からの検出報告です。週別の報告数は、病原体が分離・検出された検体の採取日による週ごとの報告数です。地域別の報告数は、その地域に所在する地研からの総報告数を都道府県別に示しています。

(2006年4月14日現在報告分)

### 冬季の感染性胃腸炎関連ウイルス 2005/06シーズン

A群ロタウイルスは第2週以降増加しており、第15週までに30都府県から計324件の検出が報告されている。

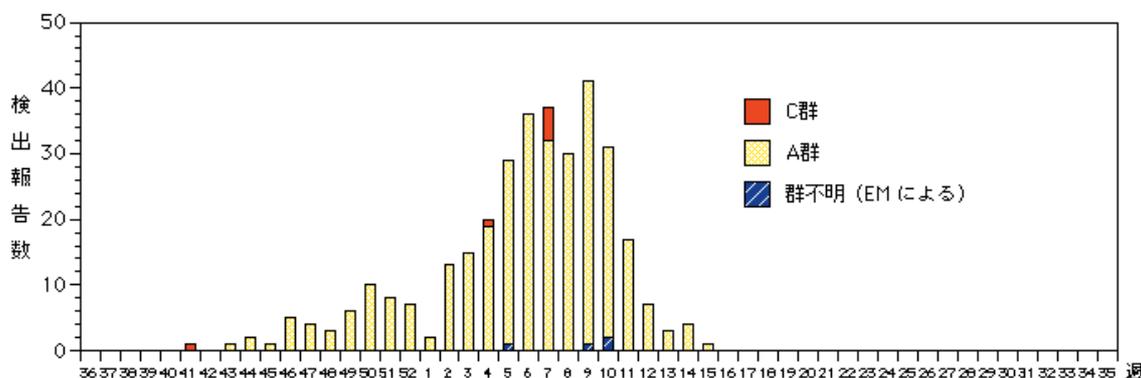
また、C群ロタウイルスの検出は、広島県から2005年第41週と第4週に散発例各1件、岩手県から第7週に保育所の集団発生による5件、計7件が報告されている。この他にも、山梨県の福祉・養護施設、島根県と大阪府の小学校でC群ロタウイルスの集団感染事例が報告されている。

ノロウイルスは前シーズンより早く報告が増加し、2005年第50週をピークに減少している。そのほとんどはgenogroup IIで、2005年第36週からの今シーズンの累計では、38府県から計1,907件の検出が報告されている。

また、genogroup Iの検出は19府県から計112件報告されており、第8週には新潟県から小学校の集団発生による14件が報告されている(前号12ページ速報記事参照)。この他、genogroup unknownの検出が110件報告されている(東京都64件、奈良県29件、鳥取県16件、新潟県1件)。

サポウイルスは10府県から計50件の検出が報告されており、第9週には滋賀県から老人ホームの集団発生による5件が報告されている。

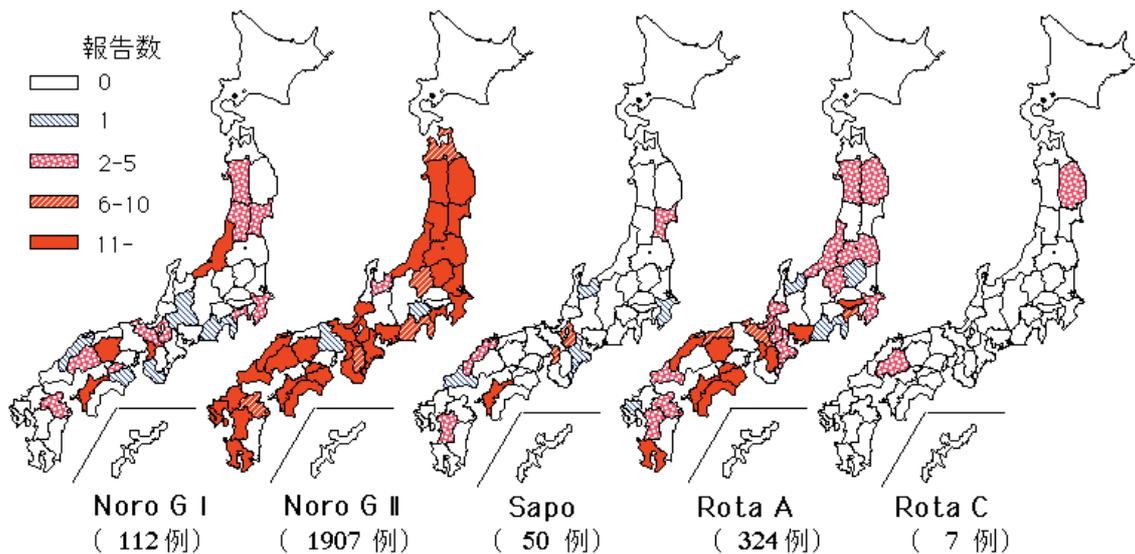
検出されたロタウイルスの内訳、2005/06シーズン (病原微生物検出情報: 2006年4月14日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を図に示した。



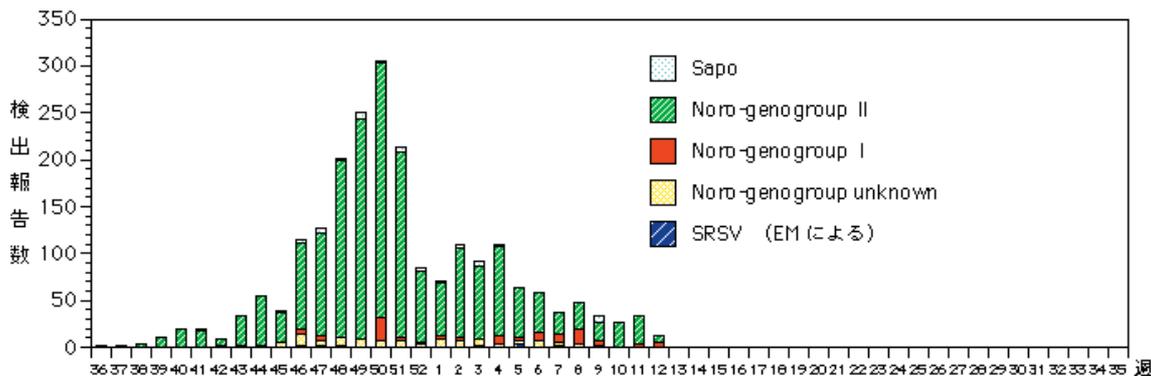
**都道府県別ノロウイルス、サポウイルス、ロタウイルス検出報告状況、2005/06シーズン**  
 (病原微生物検出情報：2006年4月14日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を図に示した。



**検出されたSRSVの内訳、2005/06シーズン** (病原微生物検出情報：2006年4月14日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を図に示した。



### インフルエンザウイルス 2005/06シーズン

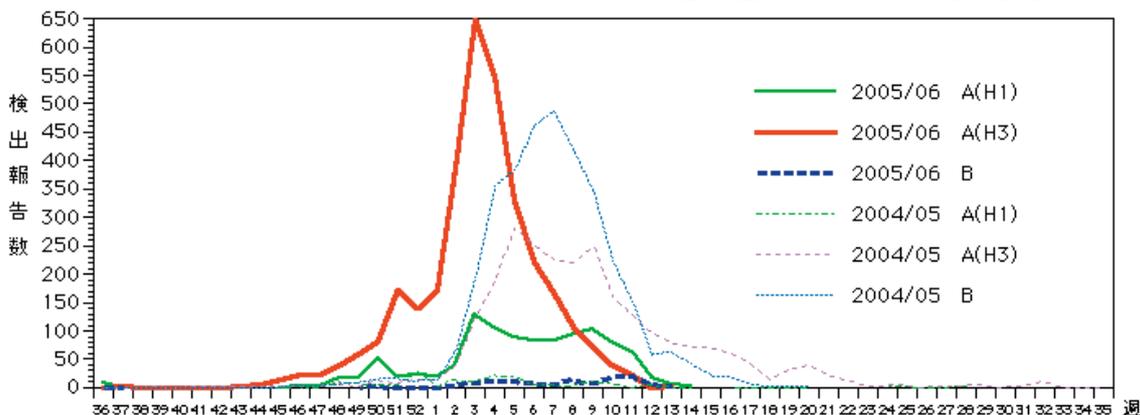
AH1型は第3週のピークの後も報告が続いており、第8週以降はAH3型の報告を上回っている(第12週16件、第13週5件、第14週3件)。今シーズンの累計では、41都道府県から1,035件の分離が報告されている(この他、PCRで東京都9件、静岡県6件、佐賀県2件、LAMPで兵庫県1件の検出)。

AH3型の報告は第3週をピークに減少している。2005年第36週からの今シーズンの累計では、全都道府県から計3,233件の分離が報告されている(この他、PCRで佐賀県29件、東京都10件、静岡市、京都府各2件、山形県1件、LAMPで兵庫県5件の検出)。

B型は数は少ないものの第1週以降毎週報告されており、第13週までに高知県68件、岐阜県12件など16府県から計120件の分離が報告されている。

週別型別インフルエンザウイルス分離 - 検出報告数の推移、2005/06シーズン

(病原微生物検出情報：2006年4月14日現在報告数)



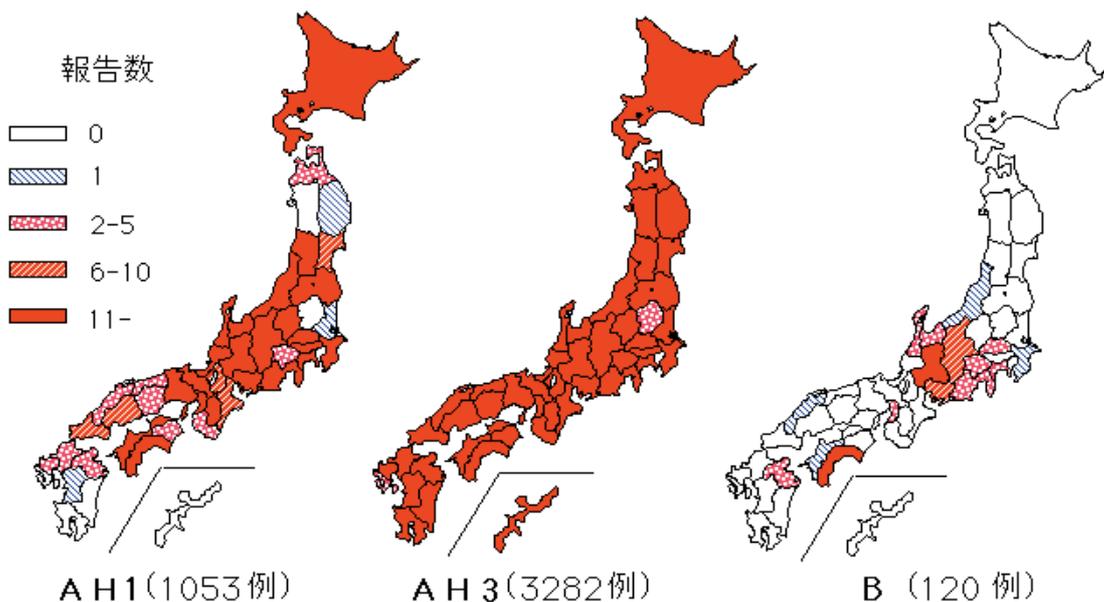
各都道府県市の地方衛生研究所からの分離/検出報告を図に示した。



Infectious Agents Surveillance Report

**都道府県別インフルエンザウイルス分離・検出報告状況、2005/06シーズン**

(病原微生物検出情報：2006年4月14日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの分離／検出報告を図に示した。

**IASR**

Infectious Agents Surveillance Report



## デング熱 1999年4月～2006年第12週 (2006年3月31日現在)

デング熱は、デングウイルスを保有するネッタイシマカやヒトスジシマカに刺されることによって感染する疾患であるがこれらの媒介蚊は日中に刺咬する。ヒトからヒトに直接感染することはない。熱帯・亜熱帯のほとんどの国にみられ、特に、東南アジア、インド亜大陸/南アジア、オセアニア、カリブ海諸国、中南米では大きな流行を繰り返している。また、アフリカでも発生がみられ、比較的最近ではハワイでもみられた。現在、日本国内にはデングウイルスは常在しないので、国内での感染はないが、ヒトスジシマカは国内にも生息している。したがって、流行地で感染した者や航空機内の感染蚊などによってウイルスが持ち込まれ、日本においても流行を起こす可能性は否定できない。

デング熱は一過性の熱性疾患であるデング熱(狭義)と、重症型のデング出血熱に分けられる。また、不顕性感染も多いと推測されている。感染後3～8日の潜伏期を経て発熱で発症し、頭痛、眼窩痛、筋肉痛、関節痛を伴う。発症3～4日後から胸部、体幹に発疹が出現し、四肢、顔面へ広がる。これらの症状は通常、1週間程度で消失する。一方、デング出血熱では、デング熱(狭義)とほぼ同様に発症するが、発症2～7日後の解熱し始めた頃に、血漿漏出による症状と出血症状が出現する。患者は不安・興奮状態となり、発汗し、四肢は冷たくなる。胸水や腹水が貯留し、皮膚の点状出血、さらに鼻出血や消化管出血などの出血症状がみられる。血漿漏出の進行により、循環血液量が減少してショック状態となることがあり、デング出血熱の中でもデングショック症候群に分類されている。

デングウイルスには1～4型の4つの血清型があり、1つの型に感染した場合、その型に対しては終生、防御免疫が得られるが、他の型には感染しうる。デング出血熱の発症機序は解明されたとは言えないが、過去の感染とは異なる型のデングウイルスに再感染した時に発症する機序が考えられている。

デング熱(狭義)およびデング出血熱の発生動向については、1999年4月の感染症法の施行により、デング熱として一括して四類感染症に規定され、診断したすべての医師に届け出が義務づけられている。

感染症法の元で報告されたデング熱(デング出血熱を含む)は、合計291例であり、年別では1999年(4月～)9例、2000年18例、2001年50例、2002年52例、2003年32例、2004年49例、2005年73例、2006年8例(第12週:3月26日診断分まで)であった(図1)。年別の変動については、現地における流行状況が反映されている可能性(IDWR 2004年第50週号 p19-23)以外に、増加については全数把握疾患であることの認識の向上、検疫所における検査体制の整備などが考えられ、減少については、重症急性呼吸器症候群(SARS)などによる流行地への渡航の減少が考えられる。なお291例のうち、デング出血熱の報告は12例みられた。死亡例の報告は1例あり、最近数年間の主な居住地がスリランカとされている日本人男性で、デング出血熱/デングショック症候群に真菌感染症を合併して死亡した(IASR Vol. 27, No. 1, p14-15)。

291例について、性別では男性184例、女性107例であった。年齢は1～73歳(中央値31歳)で、男性では4～73歳(中央値33歳)、女性では1～62歳(中央値28歳)であり、年齢群別では0～9歳9例(3%)、10～19歳13例(4%)、20～29歳112例(39%)、30～39歳78例(27%)、40～49歳51例(18%)、50～59歳17例(6%)、60～69歳10例(3%)、70～79歳1例(0%)であった(図2)。デング出血熱12例についてみると、性別では男性10例、女性2例、年齢は20～69歳(中央値37歳)であった。

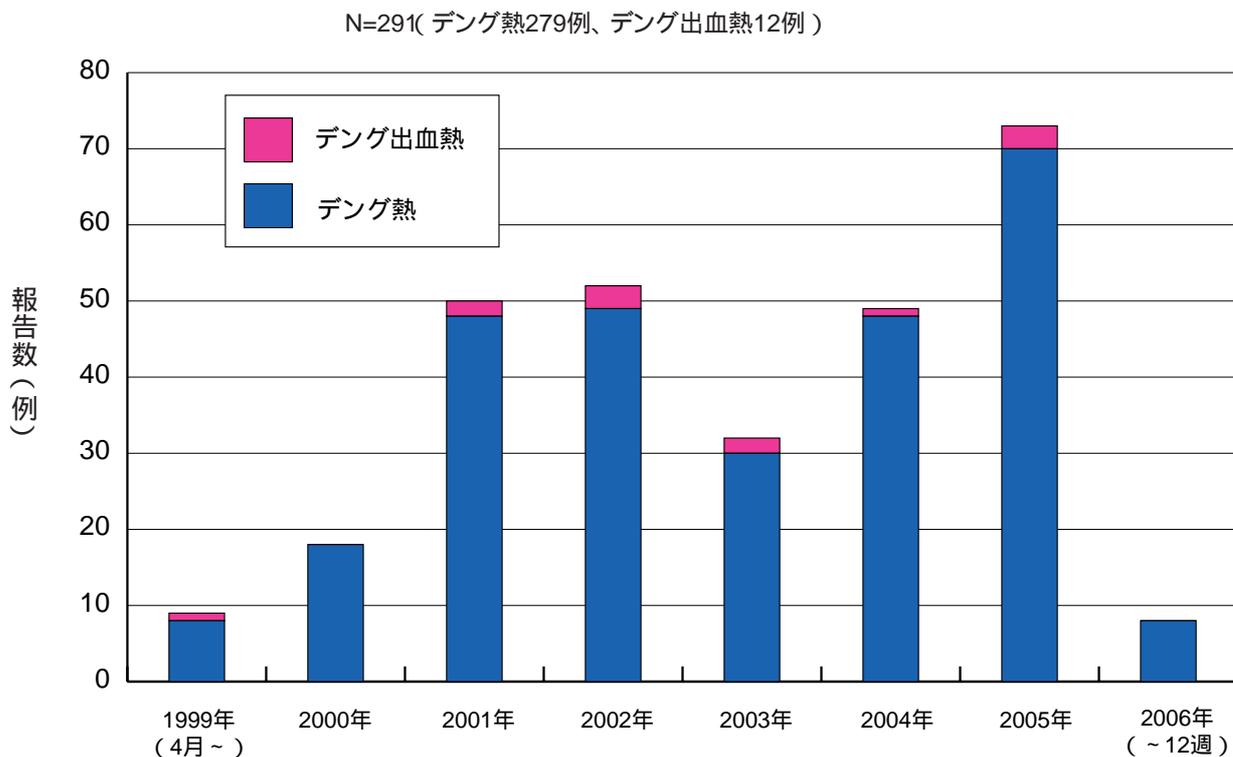


図1. デング熱の年別発生状況(1999年4月～2006年第12週)

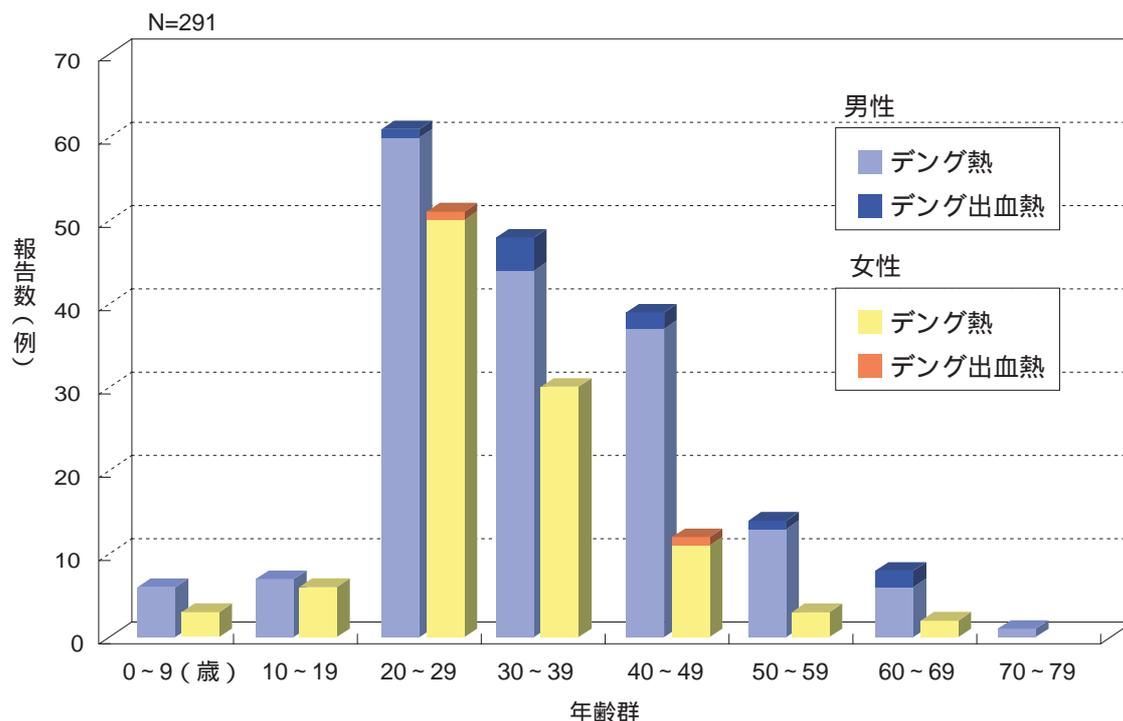


図2. デング熱の報告症例の性別・年齢群別分布(1999年4月～2006年第12週)

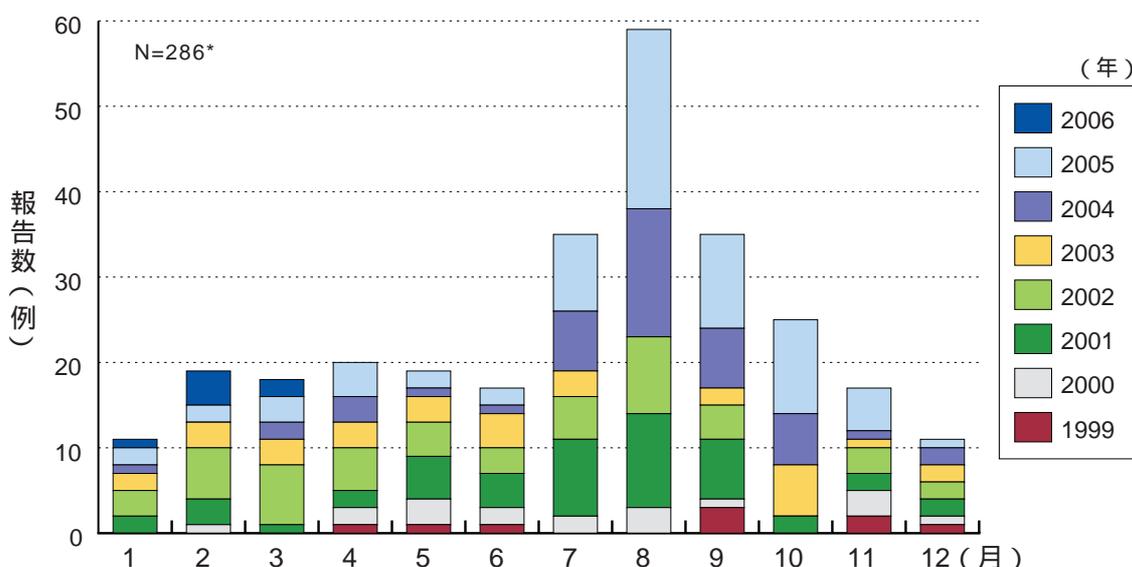


図3. デング熱の報告症例の発症月別分布(1999年4月～2006年第12週)  
\* 発症月の記載のない15例を除く。

発症月の記載があった286例について発症月をみると、8月をピークに7～9月が多く、全体の44%を占めたが(図3)これには夏季休暇の影響が考えられた。

291例について推定感染地域別にみると、アジア255例、オセアニア20例、南米7例、アフリカ5例、カリブ海諸国1例、中米1例、中東1例、不明1例で、アジアが全体の87%を占めた(表1)。国別では、インドネシア(64例)、タイ(53例)、フィリピン(37例)、インド(27例)、マレーシア(10例)、ミクロネシア(10例)が多かった。ミクロネシアでの10例のうち、9例は2004年に集中して認められ、うち6例は同一団体旅行者での発生であった。デング出血熱12例に限って推定感染国をみると、ミャンマー(2例)、タイ、シンガポール、インドネシア、モルディブ、タイ/カンボジア、スリランカ、仏領ポリネシア、フィジー、パラグアイ、ブラジル(各1例)であった。このうち3例では、最近数年間の居住地がデング熱の発生地域(ミャンマー、タイ、スリランカ各1例)であり、再感染の可能性も示唆された。残り9例の居住地は日本国内であったが、再感染の可能性については不明である。

検査診断としては、病原体検出が116例で、内訳は、分離および遺伝子の検出が4例、分離のみが2例、遺伝子の検出のみが105例、詳細不明が5例であった(表2)。また、血清抗体の検出は202例で、内訳はEIA法が69例、イムノクロマト法が12例、HI法が1例であった。さらに抗原検出が1例に行われており、詳細不明が9例みられた。

血清型別は74例に記載されていた。血清型記載数/報告数を年別にみると、1999年1/9例(11.1%)、2000年1/18例(5.5%)、2001年10/50例(20.0%)、2002年5/52例(9.6%)、2003年5/32例(15.6%)、2004年13/49例(26.5%)、2005年37/73例(50.6%)、2006年2/8例(25.0%)であり、近年、増加傾向がみられた。血清型の内訳では1型29例、2型13例、3型22例、4型10例であり、推定感染地域別にみると、東南アジアでは1型(24例)、3型(12例)、2型(9例)、4型(8例)、インド亜大陸/南アジアでは3型(9例)、2型(3例)、4型(2例)、1型(1例)、オセアニアでは1型(3例)、アフリカでは2型および3型(各1例)であった(表3)。前述のようなデング出血熱の発生機序を考えると、デングウイルス血清型の把握は重要である。

表1. デング熱の報告症例の推定感染地域

(1999年4月～2006年3月)

地域	国	合計	1999. 4～	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006. ～3	
アジア 255例	東南アジア 195例	インドネシア	64 (1)	1	2(1)	10	13	7	9	18	4
		タイ	53 (9)	1 (1)	3	18 (5)	18	5 (1)	4	4 (2)	0
		フィリピン	37	1	3	8	6	1	6	12	0
		マレーシア	10 (2)	0	0(1)	1	2	1	3	3 (1)	0
		カンボジア	7 (5)	0	0	1 (3)	2	0	3	1 (2)	0
		シンガポール	7	0	0	0	0	0	2	5	0
		ベトナム	5 (1)	0	0	0 (1)	1	1	1	1	1
		東チモール	3	0	0	0	1	0	1	0	1
		ラオス	2 (1)	0	1	1 (1)	0	0	0	0	0
		複数国	7	0	1	4	0	0	0	2	0
	インド亜大陸/南アジア 57例	インド	27 (3)	2 (1)	5	0	0	5	0 (2)	14	1
		ミャンマー	9 (2)	0	0	0 (1)	3	1 (1)	2	3	0
		バングラデシュ	8	2	1	0	1	0	0	4	0
		スリランカ	7	0	0	1	1	1	1	3	0
		ネパール	3 (3)	0 (1)	0	0	0	0	1 (2)	2	0
		モルディブ	1	0	0	0	0	0	0	1	0
		複数国	2	0	0	0	0	0	2	0	0
		上記2地域にわたる複数国	3	1	0	1	0	1	0	0	0
	オセアニア 20例	ミクロネシア	10	0	0	1	0	0	9	0	0
ニューカレドニア		3	0	0	0	0	3	0	0	0	
クック諸島		2	0	0	0	2	0	0	0	0	
フィジー		2	0	0	0	0	2	0	0	0	
仏領ポリネシア		2	0	0	2	0	0	0	0	0	
パプアニューギニア		1	0	0	0	0	1	0	0	0	
カリブ海諸国 1例	ドミニカ	1	0	1	0	0	0	0	0	0	
中米 1例	コスタリカ	1	0	0	1	0	0	0	0	0	
南米 7例	ブラジル	4	0	0	1	2	1	0	0	0	
	エクアドル	1	0	0	0	0	1	0	0	0	
	ボリビア	1	0	0	0	0	1	0	0	0	
	パラグアイ	1	1	0	0	0	0	0	0	0	
アフリカ 5例	西アフリカ	マリ	1	0	0	0	0	0	1	0	0
		ブルキナファソ	1	0	0	0	0	0	1	0	0
		ガーナ	1	0	0	0	0	0	1	0	0
	東アフリカ	セイシェル	1	0	0	0	0	0	1	0	0
	中央アフリカ	スーダン	1	0	0	0	0	0	0	0	1
中東 1例	アフガニスタン	1	0	0	0	0	0	1	0	0	
不明 1例		1	0	1	0	0	0	0	0	0	
合計		291	9	18	50	52	32	49	73	8	

( ) 内は複数国記載症例数の別掲。

治療としては、抗 Dengue ウイルス薬はないので対症療法となる。予防については、ワクチンは開発中であり、現在使用可能ではない。熱帯・亜熱帯地域への渡航に際しては、現地での Dengue 熱の流行状況を正確に把握し、長袖服・長ズボンの着用、昆虫忌避剤の使用などによって、特に日中に蚊に刺されないよう注意することが重要である。

表2. Dengue 熱の報告症例における診断方法

N=291	
病原体検出*	
分離	2
遺伝子の検出	105
分離および遺伝子の検出	4
詳細不明	5
血清抗体検出*	
EIA法	69
HI法	1
イムノクロマト法	12
詳細不明	120
抗原検出	1
詳細不明	9

\*病原体および血清抗体の両者における検出37例を含む

表3. Dengue 熱の報告症例における Dengue ウイルスの血清型

N=74				
推定感染地域	1型	2型	3型	4型
アジア				
東南アジア	24	9	12	8
インド亜大陸/南アジア	1	3	9	2
上記2地域のいずれか	1	0	0	0
小計	26	12	21	10
オセアニア	3	0	0	0
アフリカ	0	1	1	0
計	29	13	22	10



## 感染症の話

### サル痘

ヒトのサル痘は、サル痘ウイルス感染による急性発疹性疾患である。2003年11月の感染症法の改正に伴い、親規に四類感染症に規定された。自然宿主はアフリカのリリスで、サルに感染するとヒトの痘そ(天然痘)様の症状を呈する。ヒトに感染すると、重症例では臨床的に天然痘と区別できない。ヒトのサル痘での致死率は1～10%程度である。

#### 疫学

サル痘は1958年に、ポリオワクチン製造のために世界各国から霊長類が集められた施設で、カニクイサルの天然痘様疾患として初めて報告された。その後、サル施設でサルにおけるサル痘の流行があり、致死率は3～48%であった。当時は種痘(天然痘のワクチン接種)が行われていたため、ヒトの感染例は報告されていない。

ヒトのサル痘は、1970年ザイール(現コンゴ民主共和国)で天然痘様疾患として初めて報告された(表1)。その後、ヒトのサル痘は中央・西アフリカの主に熱帯雨林で散発的に流行している。WHOの報告では、1981年から1986年のヒトのサル痘患者数は338人である。1996年から1997年にかけてコンゴ民主共和国で大流行し、511名の患者が発生している。

流行地の動物の血清疫学的解析等から、サル痘ウイルスの自然宿主はアフリカのリリスであることが明らかにされた。サルおよびヒトは終末宿主である。

アフリカ大陸以外では、ヒトでのサル痘は報告されていなかったが、2003年にアフリカから愛玩用に輸入された齧歯類を介して、サル痘ウイルスが米国テキサス州に持ち込まれ、動物業者で北米原産のプレーリードックに感染し、これをペットとして購入したヒトに感染することで流行が起き、ウィスコンシン州39名、インディアナ州16名、イリノイ州12名、ミズーリ州2名、カンザス州およびオハイオ州各1名、計71名の患者が発生した。小児1名は重症となったが、水痘との重感染であることが明らかになっている。

表1. WHOに報告されたヒトのサル痘患者数

年	発生国	患者数
1970～1992年	コンゴ民主共和国	391
	ガボン	8
	中央アフリカ共和国	6
	リベリア	4
	ナイジェリア	3
	カメルーン	3
	コートジボアール	2
	シエラレオーネ	1
1996～1997年	コンゴ民主共和国	511
2003年	アメリカ合衆国	71

#### 病原体

ポックスウイルス科は、感染細胞の細胞質で増殖する巨大な二本鎖DNAを遺伝子に持つエンベロープウイルスで、脊椎動物に感染する *Chordopoxvirus* と、節足動物に感染する *Entomopoxvirus* 亜科に分類される。*Chordopoxvirus* 亜科は *Orthopoxvirus* (オルソポックスウイルス)、*Parapoxvirus*、*Capripoxvirus*、*Sulpoxvirus*、*Leporipoxvirus*、*Avipoxvirus*、*Yatapoxvirus*、*Molluscipoxvirus* の8属と、未分類のウイルスからなる。オルソポックスウイルス属のウイルスの形態はレンガ状で、その長径は300nmを超える巨大なウイルスである(写真1)。感染性ウイルス粒

子は、細胞内で形成される細胞内成熟ウイルスと、細胞内成熟ウイルスが感染細胞膜から出芽し、細胞膜由来脂質膜をさらに被った細胞外外皮ウイルスからなる。両者の脂質膜上のウイルス糖タンパクは異なる。個体間の感染には細胞内成熟ウイルスが関与し、感染個体内での感染の拡大には主に、細胞外外皮ウイルスが関与すると考えられている。オルソポックスウイルス属には、サル痘ウイルス、痘瘡ウイルス(天然痘ウイルス)、ワクチニアウイルス(種痘に用いられるウイルス)、牛痘ウイルス等が含まれる。ヒトへのサル痘ウイルス感染は、主に感染動物や患者との接触感染である。ヒトからヒトへの二次感染は天然痘と比べて少なく、数%である。

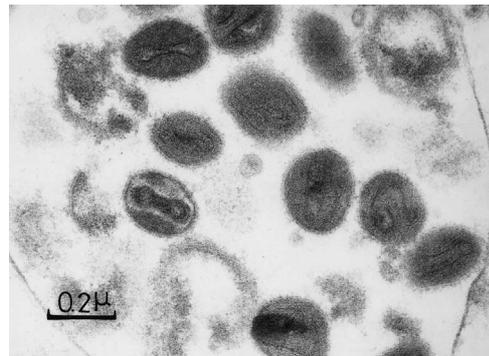


写真1. 天然痘ウイルスの電子顕微鏡写真(形態的にはサル痘ウイルス、天然痘ウイルス、ワクチニアウイルス等を相互に区別できない)

2003年の米国での流行では、4月9日にガーナからペットとしてテキサス州に輸入された齧歯類により、サル痘ウイルスが持ち込まれ、プレーリードックに感染し、プレーリードックからヒトへ感染したことが明らかにされた。輸入された齧歯類のうち、サバンナオニネズミ(ガンビアンラット)、アフリカヤマネ、キリスからサル痘ウイルスが検出されている。北米大陸を原産とするプレーリードックはサル痘ウイルスに感受性が高く、感染すると発症する。米国の調査で、テキサス州へ輸入された齧歯類のうち、アフリカヤマネ17匹が2003年5月8日に日本へ輸出されたことが判明した。厚生労働省の調査により、7月3日時点では輸入されたアフリカヤマネ17匹中15匹がすでに死亡し、2匹のみが生存していた。この2匹について、国立感染症研究所でサル痘ウイルスの検査(PCR、ウイルス分離、抗体検査)を行った結果、陰性であった。アフリカからの輸入が禁止されている齧歯類は、ラッサ熱を媒介するマストミスのみであるため、日本にも輸入感染症としてサル痘患者が発生する可能性は否定できない。

サル痘ウイルスには大きく分けてコンゴ型と西アフリカ型があり、前者の病原性が高い。米国での流行は、西アフリカ型のサル痘ウイルスによることが明らかになっている。

サル痘ウイルスのヒトへの感染経路は、感染動物に咬まれること、あるいは感染動物の血液・体液・皮膚病変(発疹部位)との接触による。ヒトからヒトへの感染は稀であるが、患者の飛沫・体液・皮膚病変(発疹部位)との接触により感染する可能性がある。

#### 臨床症状・徴候

ヒトにおけるサル痘の潜伏期間は7～21日(平均12日)で、その後、発疹(写真2)、発熱、発汗、頭痛、悪寒、咽頭痛、リンパ節腫脹が現れる。重症例では臨床的に天然痘と区別できない。致死率は、アフリカでの流行では数～10%と報告されているが、2003年のアメリカ合衆国での流行では、死亡例は報告されていない。アフリカでの致死率が高いのは、報告された流行の大部分がコンゴ民主共和国で、病原性の高いコンゴ型のサル痘ウイルスによること、医療体制や栄養状態の



写真2. サル痘患者の顔面の発疹(WHO提供)

問題、HIV感染による免疫低下等によると考えられる。動物ではサル、ウサギ、プレーリードック等が高感受性で、感染すると発症する。

#### 病原診断

オルソポックスウイルス属のウイルスは抗原的には相互に区別できないため、サル痘特異抗体は検出できない。また、種痘歴のある場合はすでに抗体があるため、血清診断はできない。しかし、未種痘者では元々オルソポックスウイルス抗体は陰性であること、既種痘者でも発症5日目からIgM抗体の上昇が見られることから、血清診断で少なくともオルソポックスウイルス感染の有無は判定できる。このため、サル痘流行時には診断的価値は高い。特異的な実験室診断としては、病変部位からのウイルス分離や、PCRによるサル痘ウイルス遺伝子検出が行われる。

#### 治療・予防

特異的治療法はないため、対症療法が行われる。サル痘ウイルスを含むオルソポックスウイルスにシドフォビルが有効であることが実験的に明らかになっているが、サル痘患者への投与例はない。現在、シドフォビル以外にも、いくつかの有望な抗ポックスウイルス薬の開発が行われている。種痘はサル痘にも有効であるが、日本では1976年以降、種痘は行われていない。

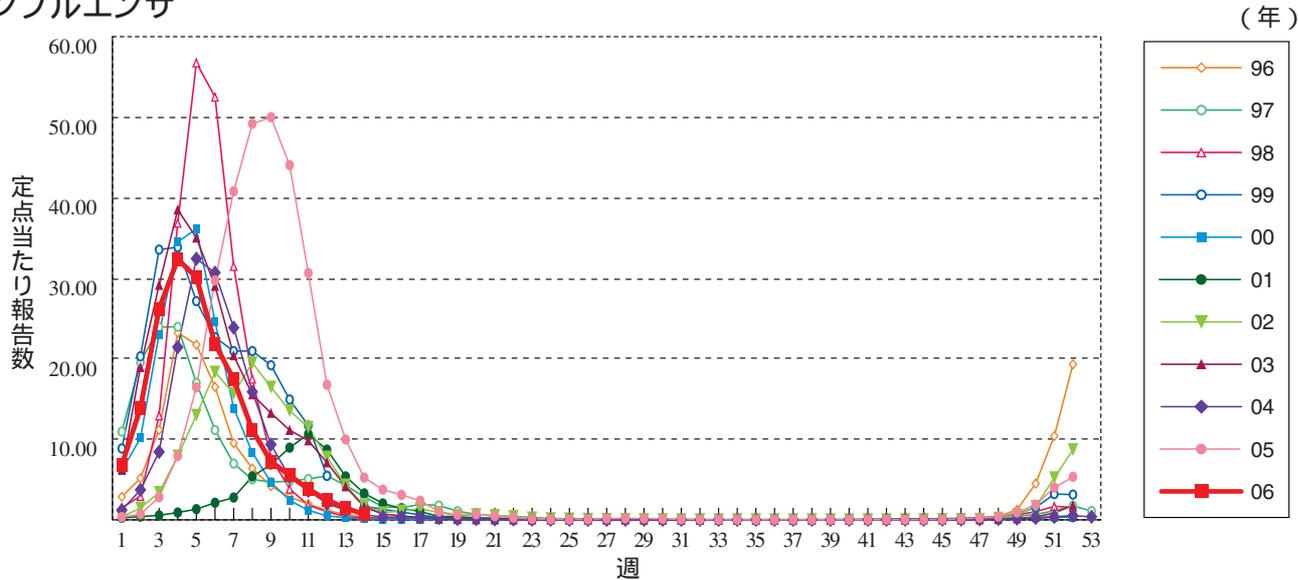
#### 感染症法における取り扱い

サル痘は四類感染症に定められており、診断した医師は直ちに最寄りの保健所に届け出る義務がある。

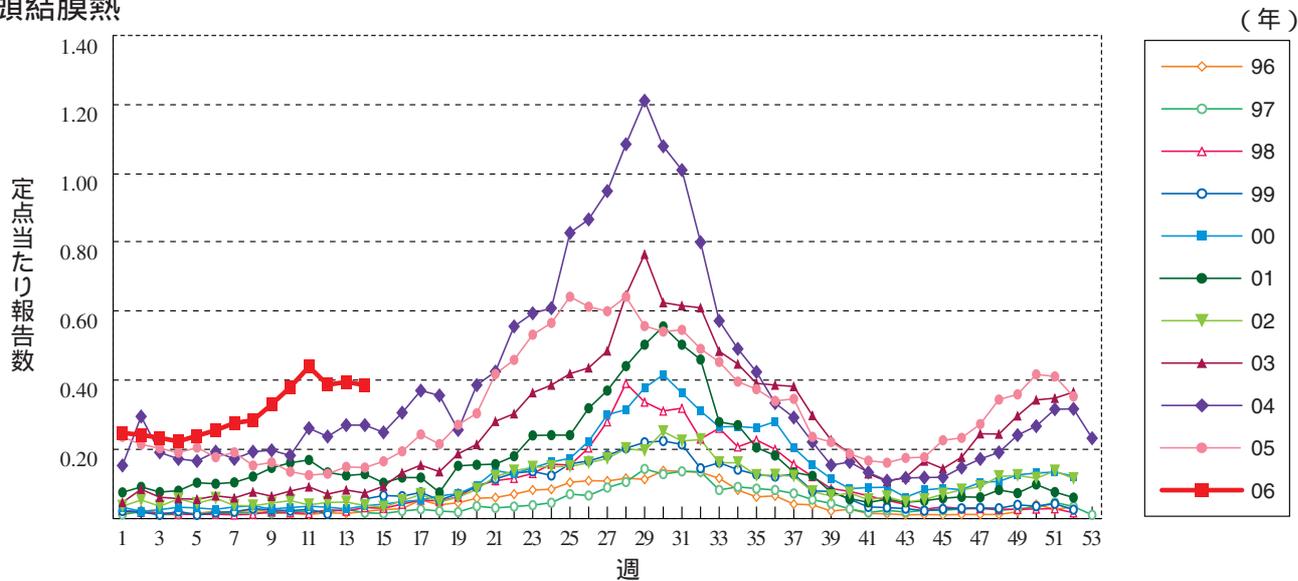
( 国立感染症研究所ウイルス第一部 森川 茂 )

**グラフ総覧(14週)**

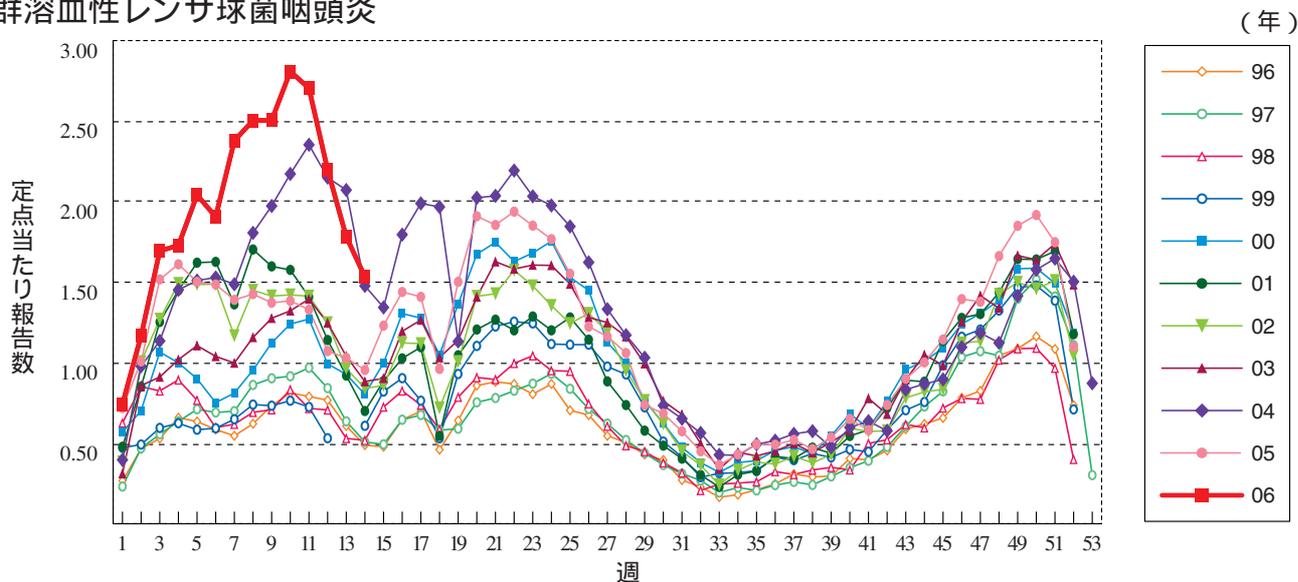
**インフルエンザ**



**咽頭結膜熱**



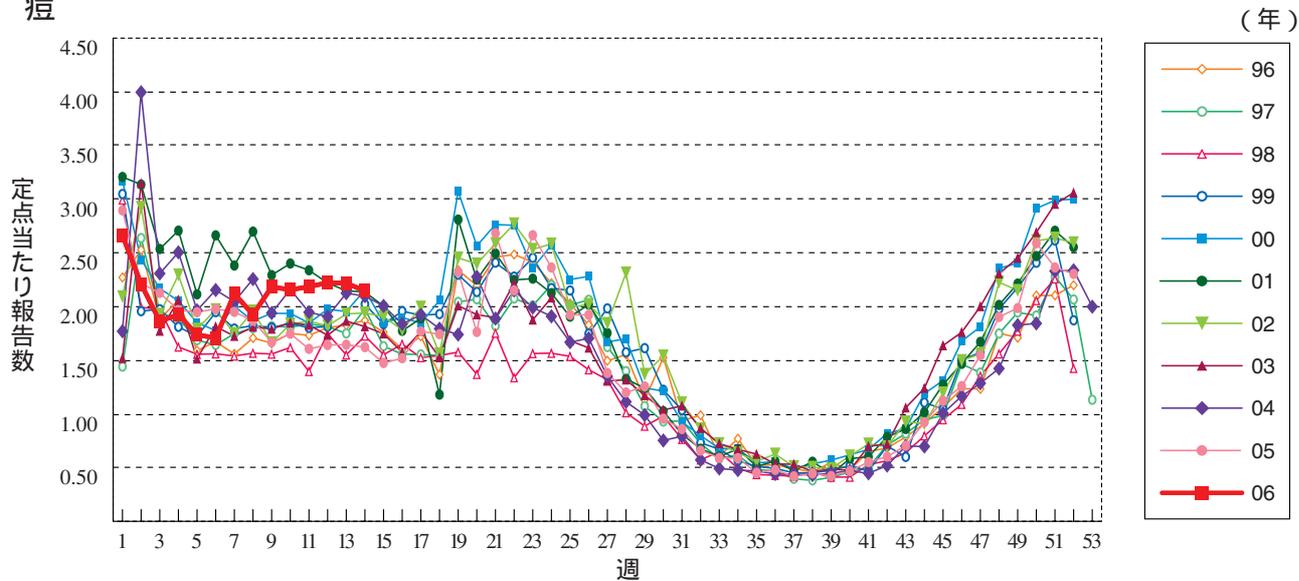
**A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**



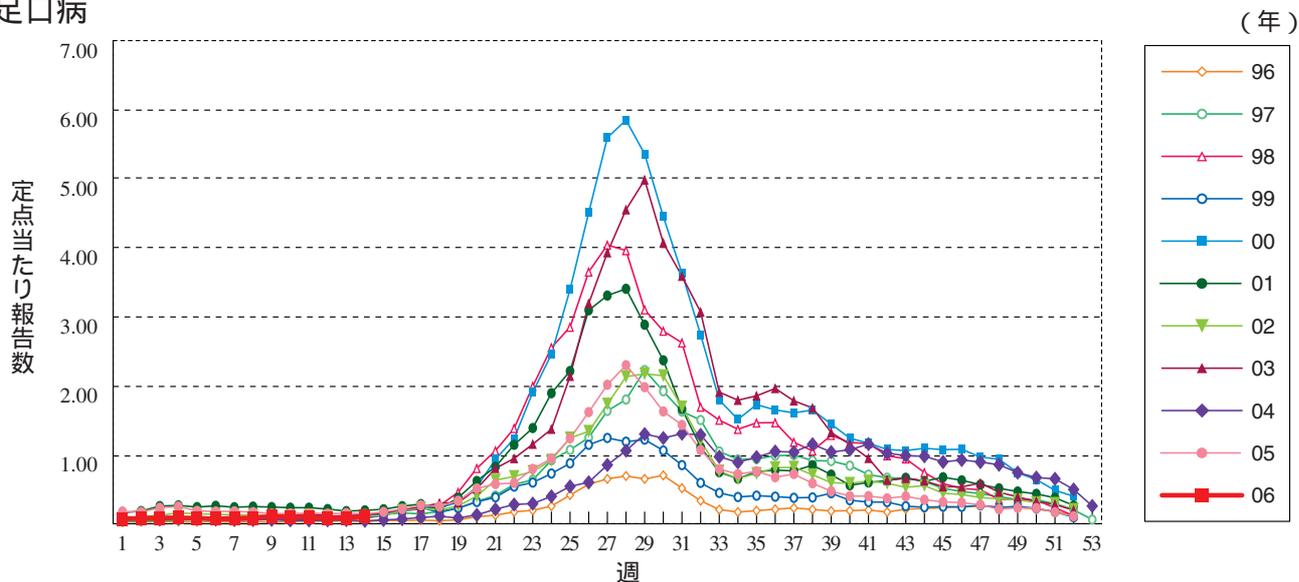
**感染性胃腸炎** 1999年3月までは「乳児嘔吐下痢症」として報告された患者も含む



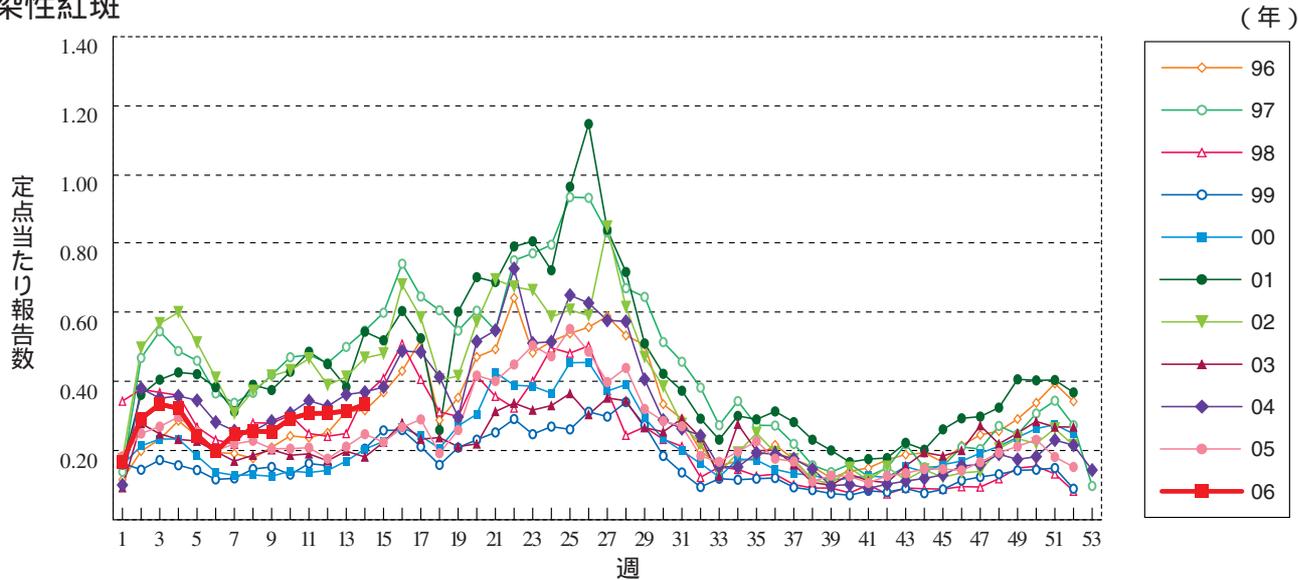
**水痘**



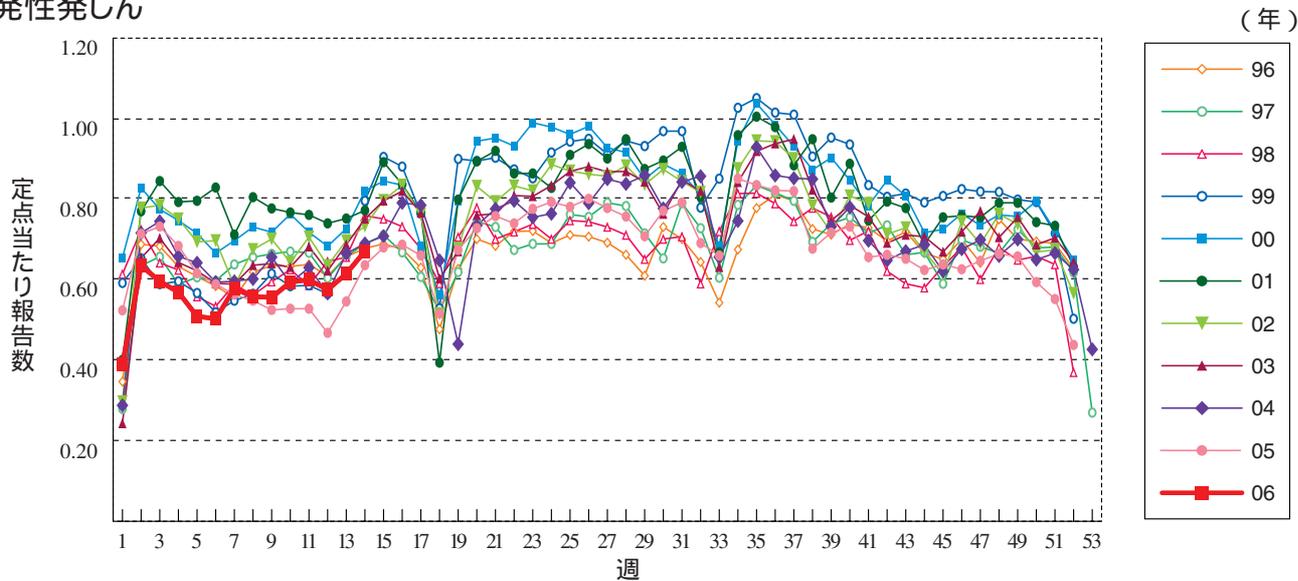
**手足口病**



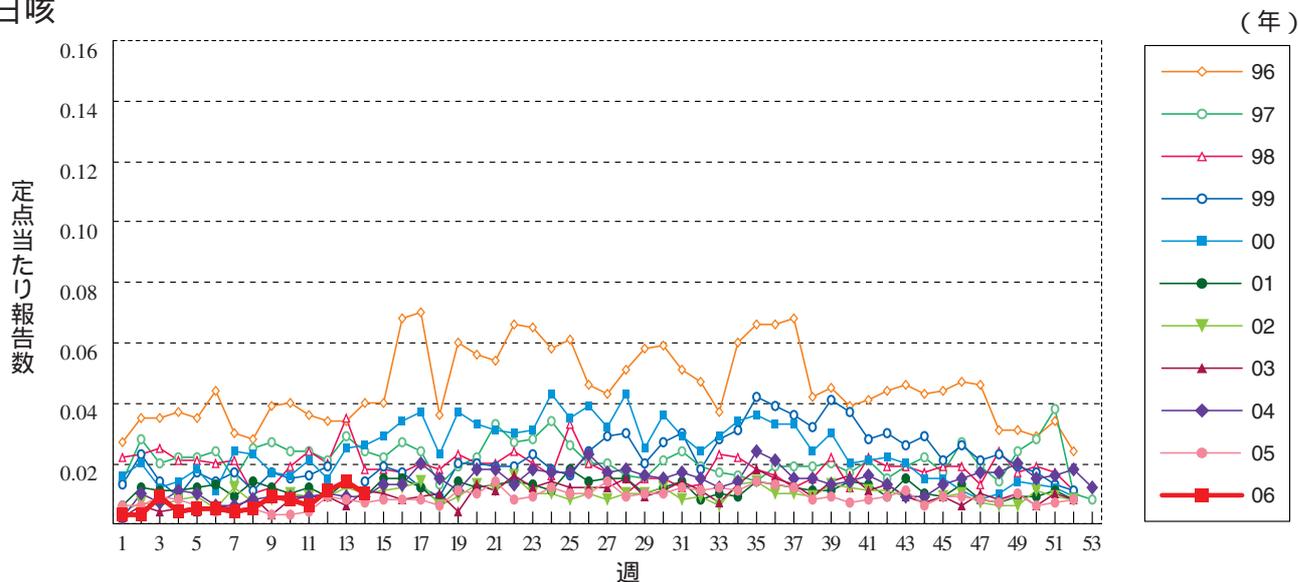
伝染性紅斑



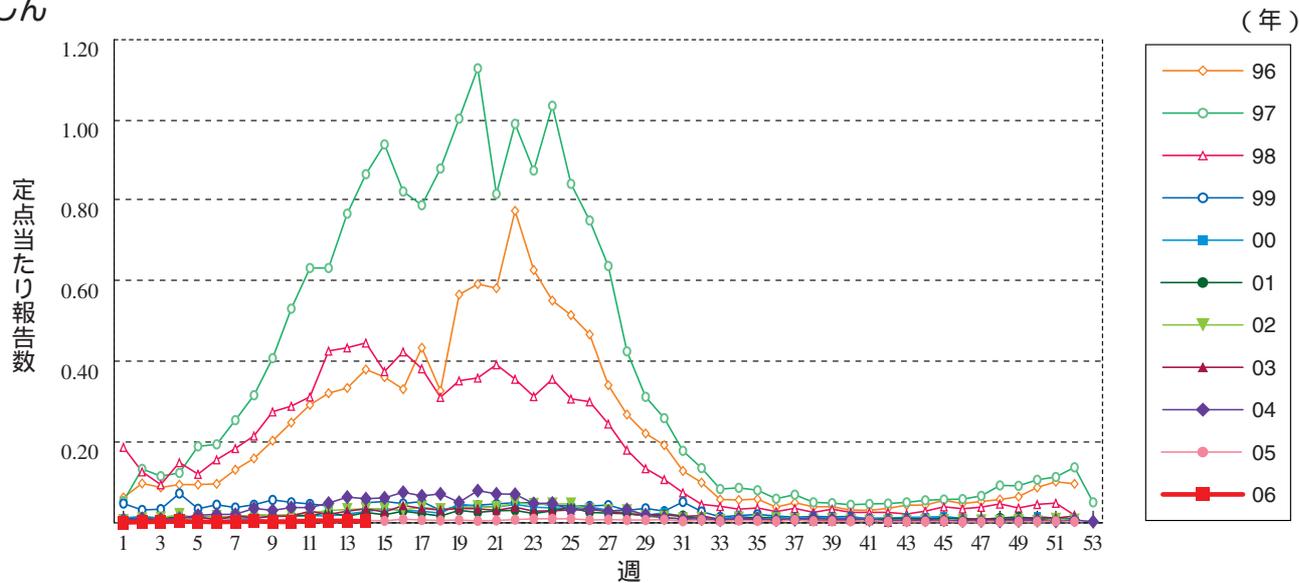
突発性発しん



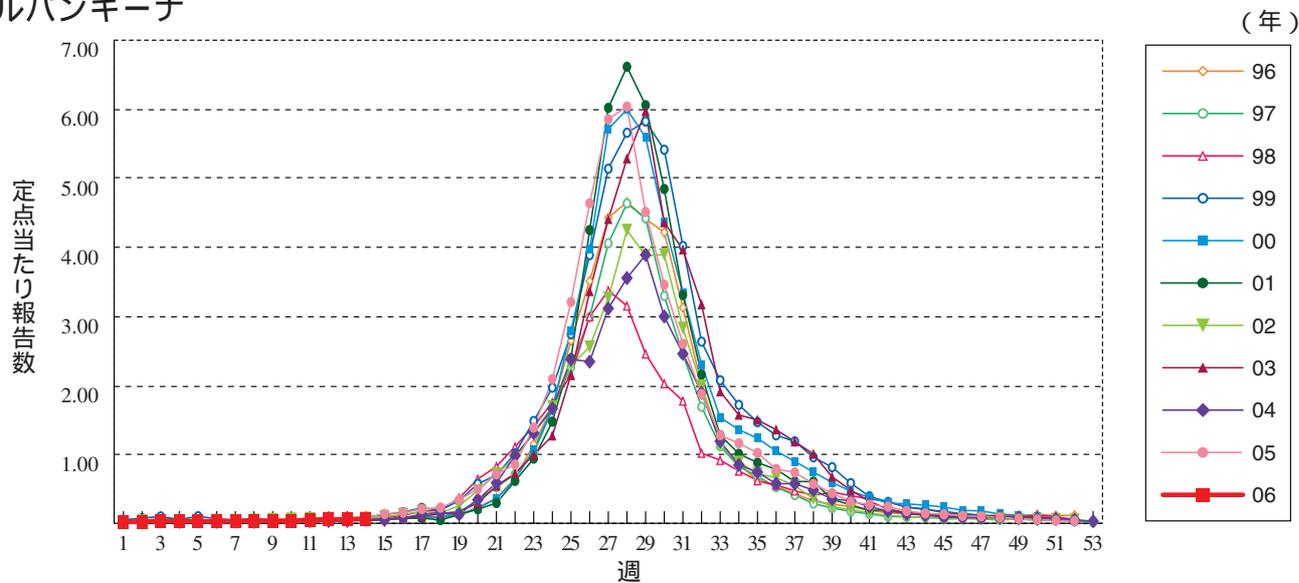
百日咳



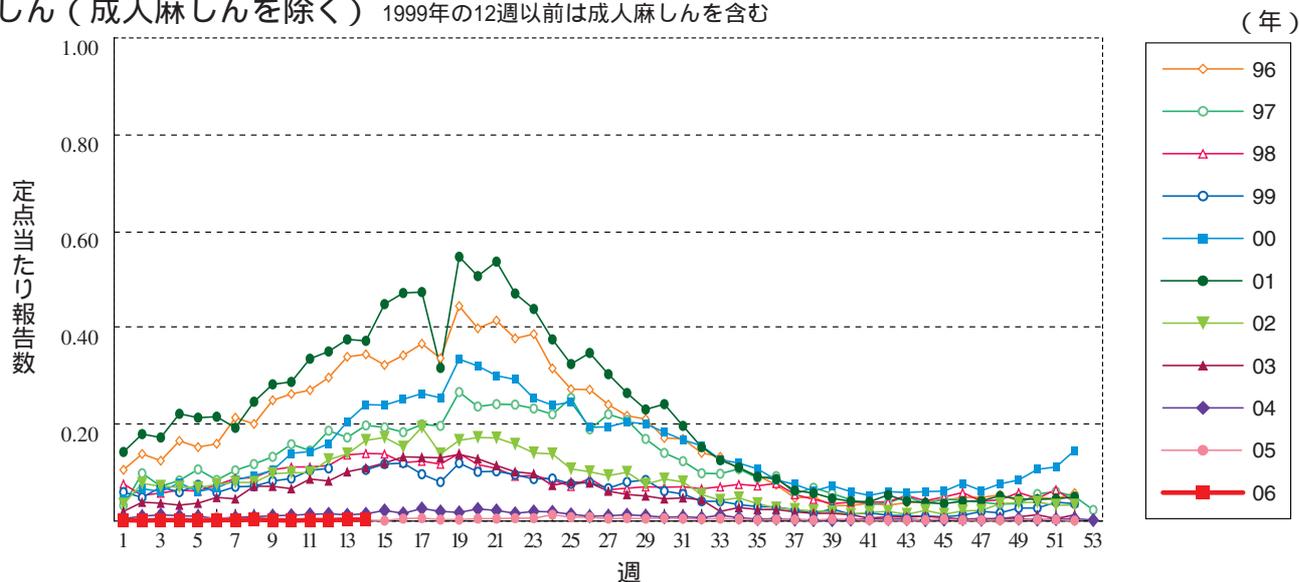
風しん



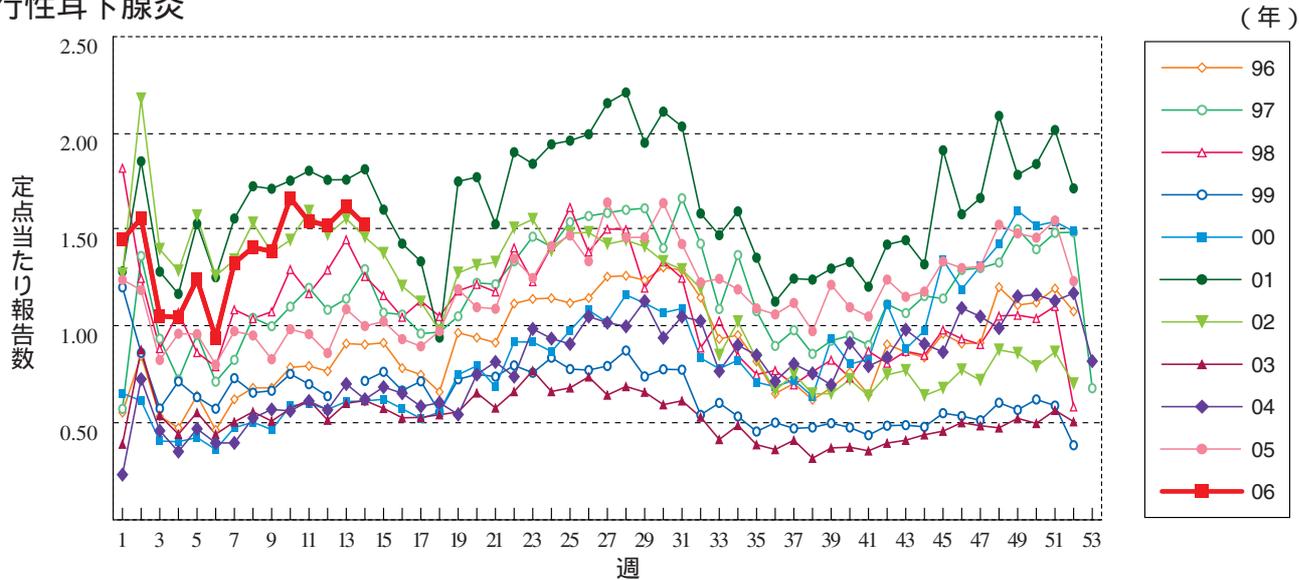
ヘルパンギーナ



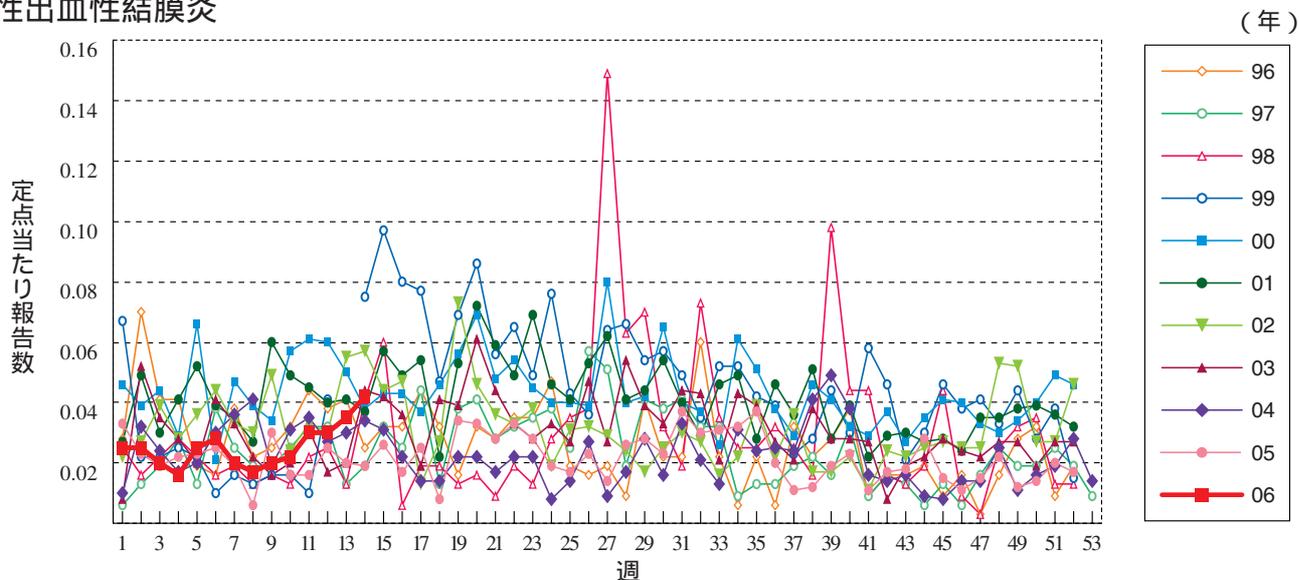
麻しん (成人麻しんを除く) 1999年の12週以前は成人麻しんを含む



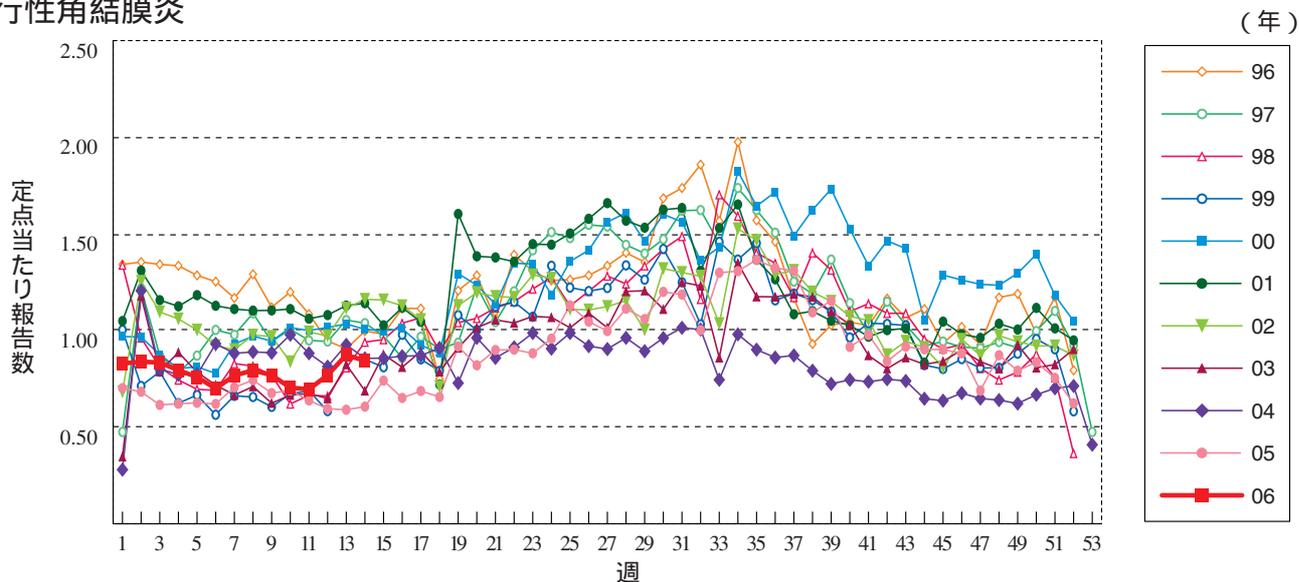
流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎

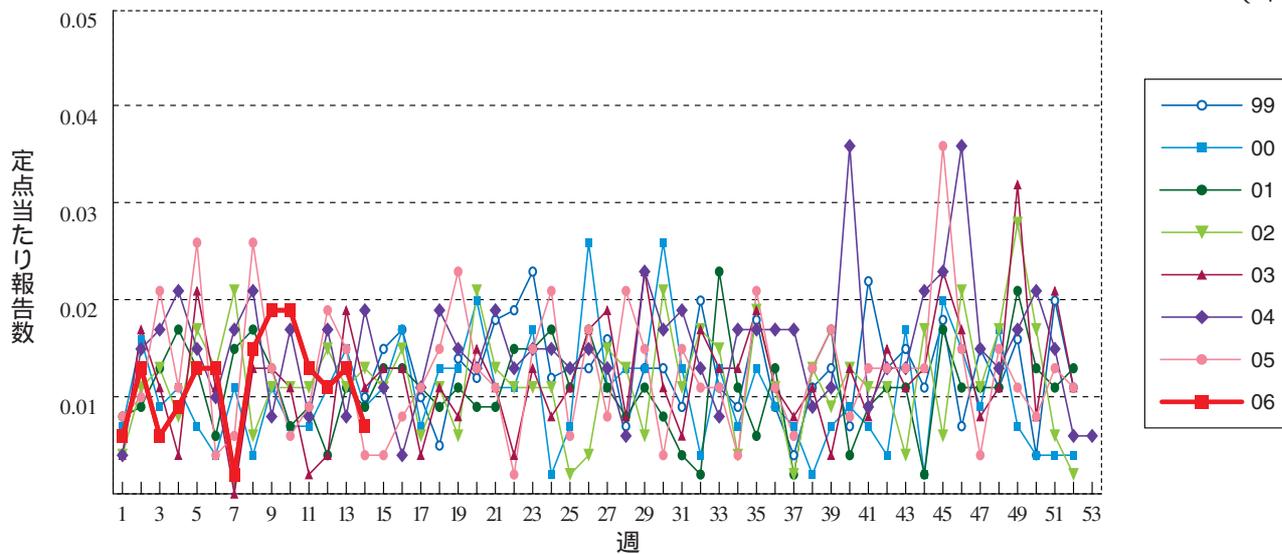


流行性角結膜炎



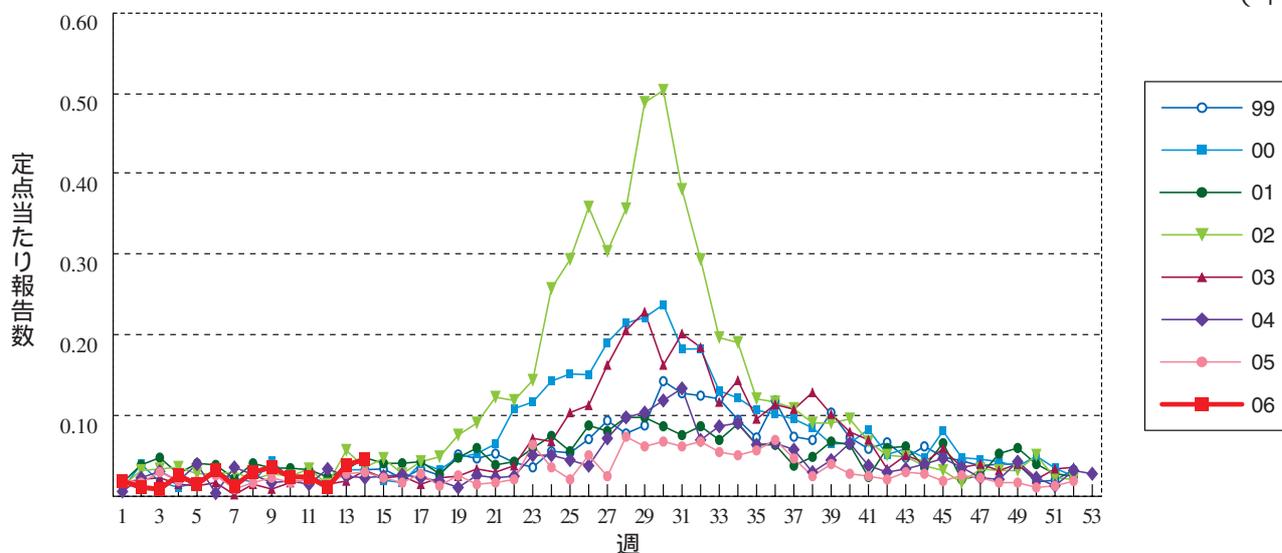
細菌性髄膜炎

(年)



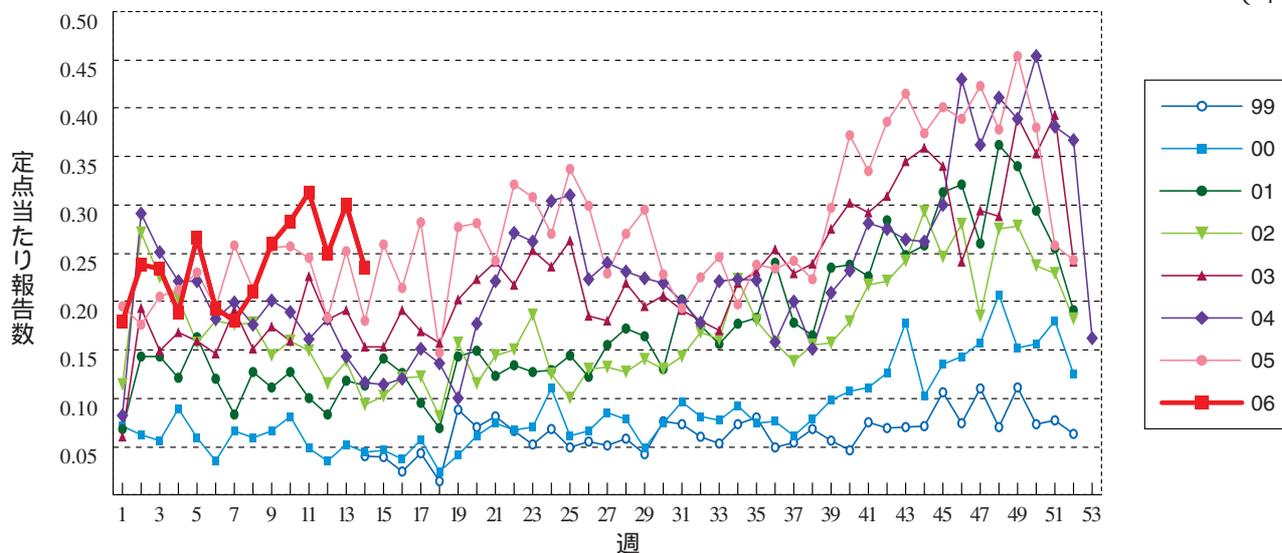
無菌性髄膜炎

(年)



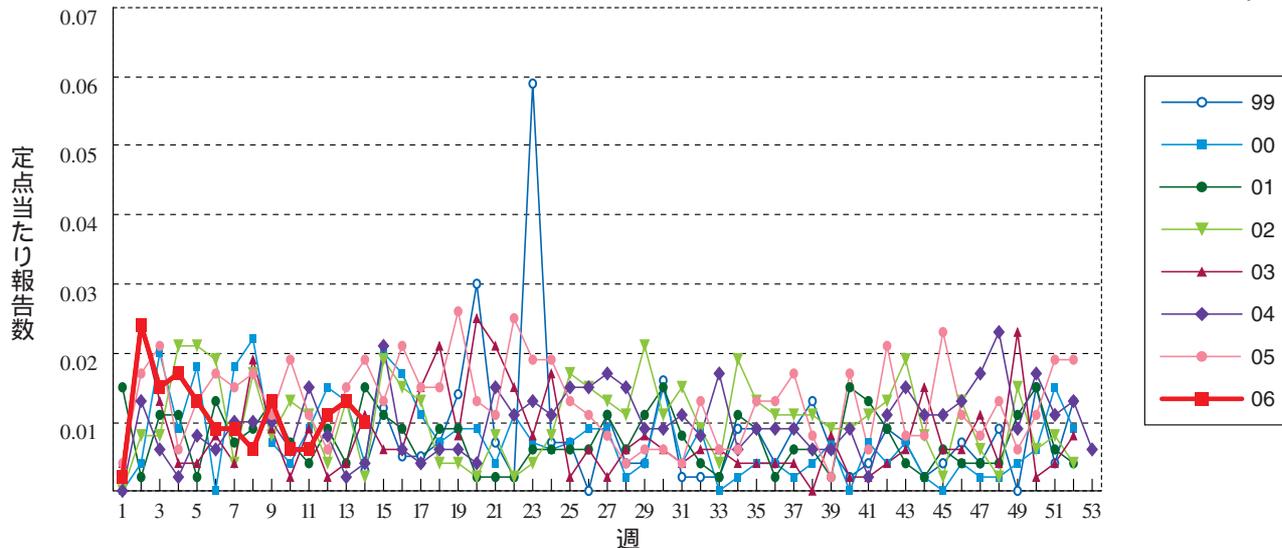
マイコプラズマ肺炎

(年)



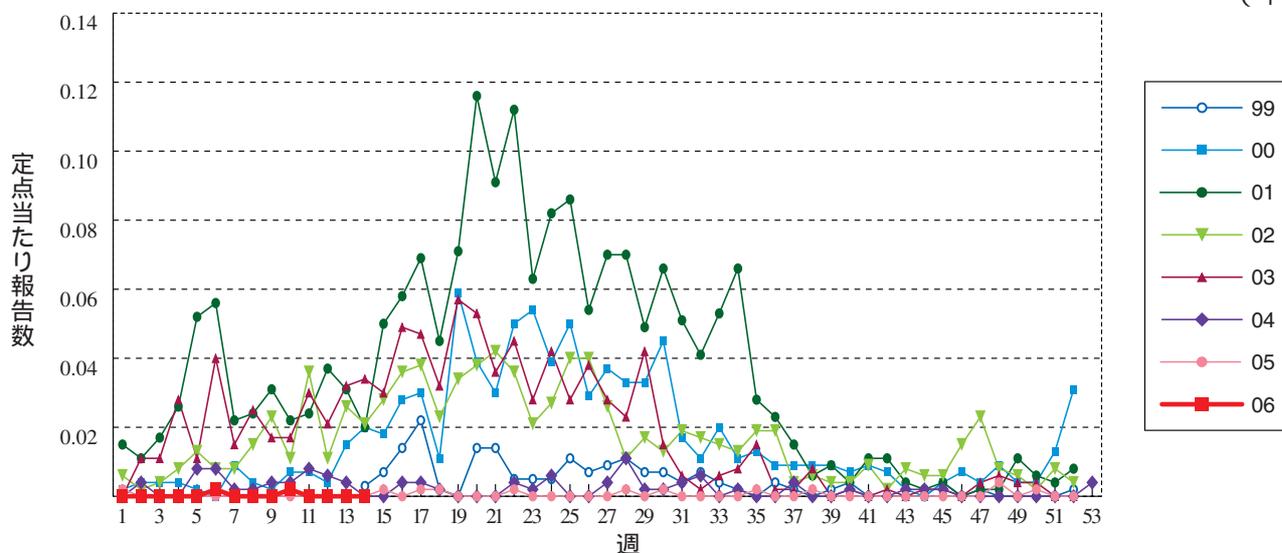
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)

(年)



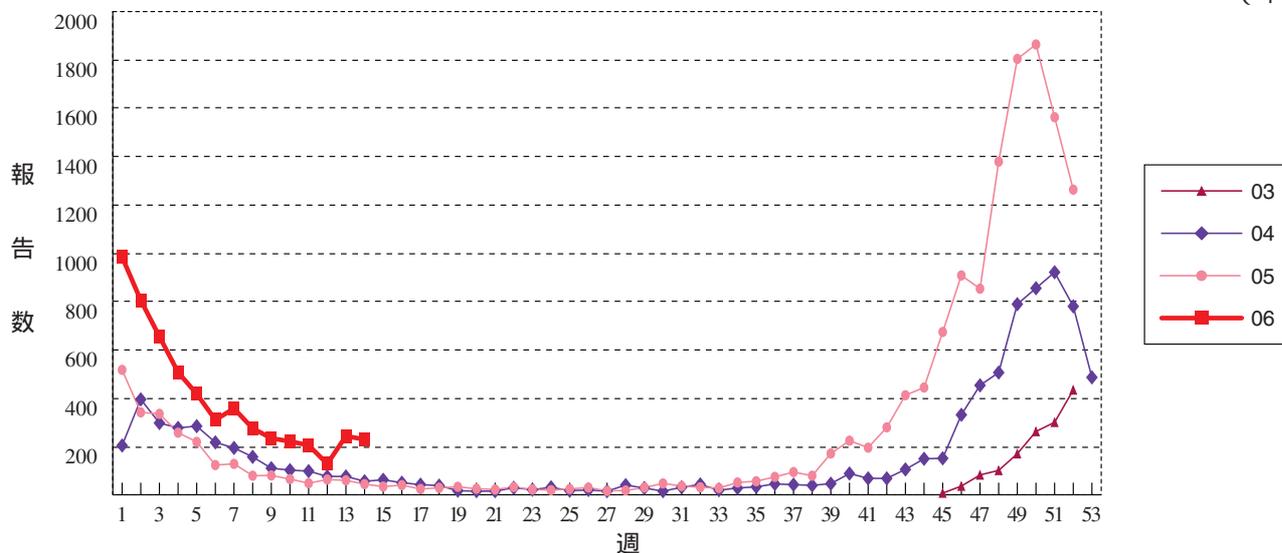
成人麻疹

(年)



RSウイルス感染症 定ポイントあたり報告数ではなく、報告数を示しています。

(年)





### 14週 of データ

注)表中の報告数は4月14日集計分であり、その後の報告は次週以降の累積に反映されず、  
2006年4月からの報告システムの変更に伴い、疾病の並び順を一部変更しました。

報告数・累積報告数、疾病・都道府県別

\*病原体がSARSコロナウイルスであるものに限る。

2006年14週

	エボラ出血熱		クリミア・コンゴ出血熱		重症急性呼吸器症候群*		痘 そう		ペスト		マールブルグ病		ラッサ熱		急性灰白髄炎		コレラ	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	9
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2006年14週

	細菌性赤痢		ジフテリア		腸チフス		パラチフス		腸管出血性大腸菌感染症		E型肝炎		ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)		A型肝炎		エキノコックス症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	9	133	-	-	1	16	-	5	6	116	3	23	-	-	10	112	1	7
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	1	3	-	-	-	4	1	7
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	2	-	-	1	1	-	-
秋田県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
栃木県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	1	6	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	1	6	-	-
千葉県	4	27	-	-	-	3	-	1	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-
東京都	-	19	-	-	-	7	-	3	1	10	-	-	-	-	-	14	-	-
神奈川県	-	4	-	-	-	2	-	-	2	10	-	5	-	-	1	5	-	-
新潟県	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-
富山県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	1	-	-	1	1	-	1	-	-	1	2	-	-	-	2	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	6	-	-
静岡県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-
愛知県	2	7	-	-	-	1	-	-	1	9	-	2	-	-	-	13	-	-
三重県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	5	-	-
大阪府	2	30	-	-	-	1	-	-	-	7	-	-	-	-	1	14	-	-
兵庫県	-	9	-	-	-	-	-	-	-	5	-	1	-	-	-	9	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14	-	-	-	-	-	9	-	-
広島県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	5	-	1	-	-	2	6	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	4	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	2	-	-
高知県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	5	-	-	-	-	-	-	-	5	-	1	-	-	-	1	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	4	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-
鹿児島県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	1	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2006年14週

	黄熱		オウム病		回帰熱		Q熱		狂犬病		高病原性鳥インフルエンザ		コクシジオイデス症		サル痘		腎症候性出血熱	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東京都	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2006年14週

	炭 疽		つつが虫病		デング熱		ニパウイルス感染症		日本紅斑熱		日本脳炎		ハンタウイルス肺症候群		Bウイルス病		ブルセラ症		
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	
総 数	-	-	-	21	2	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
北海道	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	3	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2006年14週

	発しんチフス		ポツリヌス症		マラリア		野 兎 病		ライム病		リッサウイルス 感染症		レジオネラ症		レプトスピラ症		アメーバ赤痢	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	1	8	-	-	-	-	-	-	5	93	-	-	7	158
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	3
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3
栃木県	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	4
千葉県	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	1	6
東京都	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	1	11	-	-	2	45
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	6
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	2
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	3
愛知県	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	11	-	-	1	13
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	-	-	-	2
京都府	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	8	-	-	1	23
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	7	-	-	-	11
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	1
鳥取県	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	1	2
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

\*E型肝炎およびA型肝炎を除く。  
 \*\*ウエストナイル脳炎および日本脳炎を除く。

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2006年14週

	ウイルス性肝炎*		急性脳炎**		クリプトスポリジウム症		クロイツフェルト・ヤコブ病		劇症型溶血性レンサ球菌感染症		後天性免疫不全症候群		ジアルジア症		髄膜炎菌性髄膜炎		先天性風しん症候群	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	1	56	1	67	-	3	2	50	-	30	15	295	-	17	-	5	-	-
北海道	-	3	-	1	-	-	-	5	-	3	1	12	-	1	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
福島県	-	1	-	2	-	-	-	1	-	1	-	5	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	1	-	5	-	-	-	1	-	-	2	9	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	1	-	-	-	2	-	2	-	5	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	1	-	3	-	-	-	3	-	1	-	5	-	-	-	1	-	-
千葉県	-	1	-	7	-	-	-	2	-	4	1	13	-	-	-	-	-	-
東京都	-	10	-	4	-	2	-	8	-	2	4	101	-	5	-	-	-	-
神奈川県	-	3	-	1	-	-	-	4	-	-	-	14	-	-	-	2	-	-
新潟県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
富山県	-	3	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	2	1	3	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	2	-	-	-	3	-	-	-	3	-	5	-	-	-	-
長野県	-	3	-	-	-	-	-	1	-	1	-	6	-	-	-	1	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	3	-	1	-	-	-	1	-	1	-	5	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	2	-	2	-	-	-	1	-	4	2	23	-	-	-	-	-	-
三重県	1	2	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	2	-	-	-	-	-	-
京都府	-	2	-	-	-	-	-	2	-	-	1	7	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	5	-	5	-	1	1	3	-	1	1	26	-	3	-	-	-	-
兵庫県	-	7	1	4	-	-	-	1	-	1	-	11	-	1	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	5	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	2	-	2	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	4	-	-	-	4	-	-	1	3	-	1	-	-	-	-
山口県	-	1	-	1	-	-	-	1	1	-	-	2	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	1	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	2	-	6	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別 2006年14週

	梅 毒		破 傷 風		バンコマイシン耐性 黄色ブドウ球菌感染症		バンコマイシン耐性 腸球菌感染症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	10	138	2	13	-	-	-	15
北海道	-	2	-	-	-	-	-	-
青森県	-	1	-	-	-	-	-	1
岩手県	-	2	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	4	-	-	-	-	-	1
秋田県	1	2	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	1	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	1	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	1	1	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	1	-	-	-	-	-	1
千葉県	-	5	-	2	-	-	-	-
東京都	1	22	1	2	-	-	-	3
神奈川県	-	4	-	1	-	-	-	-
新潟県	-	2	-	-	-	-	-	1
富山県	-	1	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	2	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	1	-	-	-	-
長野県	-	3	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	2
静岡県	-	2	-	-	-	-	-	-
愛知県	2	11	-	1	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	2	-	-	-	-	-	-
京都府	-	1	-	-	-	-	-	-
大阪府	1	8	-	1	-	-	-	3
兵庫県	-	6	-	-	-	-	-	1
奈良県	-	1	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	1	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	3	-	1	-	-	-	-
広島県	-	2	-	1	-	-	-	-
山口県	2	5	1	1	-	-	-	-
徳島県	-	1	-	-	-	-	-	-
香川県	-	1	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	7	-	-	-	-	-	-
福岡県	2	12	-	-	-	-	-	1
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	5	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	8	-	1	-	-	-	1
大分県	-	1	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	1	-	1	-	-	-	-
鹿児島県	-	5	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	1	-	-	-	-	-	-

\*高病原性鳥インフルエンザを除く。

報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

2006年14週

	インフルエンザ*		咽頭結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発しん		百日咳	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	2975	0.68	1166	0.39	4618	1.53	19235	6.39	6465	2.15	309	0.10	1006	0.33	2020	0.67	29	0.01
北海道	410	1.86	34	0.24	331	2.33	385	2.71	196	1.38	3	0.02	13	0.09	52	0.37	-	-
青森県	175	2.69	4	0.10	28	0.67	150	3.57	76	1.81	1	0.02	44	1.05	22	0.52	-	-
岩手県	21	0.33	1	0.03	40	1.03	173	4.44	29	0.74	1	0.03	5	0.13	12	0.31	-	-
宮城県	35	0.36	7	0.11	109	1.79	483	7.92	135	2.21	17	0.28	18	0.30	54	0.89	-	-
秋田県	145	2.64	9	0.26	72	2.06	189	5.40	42	1.20	6	0.17	23	0.66	19	0.54	1	0.03
山形県	23	0.48	15	0.50	81	2.70	185	6.17	69	2.30	2	0.07	27	0.90	27	0.90	-	-
福島県	68	0.84	14	0.29	99	2.02	385	7.86	108	2.20	-	-	57	1.16	36	0.73	-	-
茨城県	31	0.55	17	0.23	156	2.11	266	3.59	127	1.72	7	0.09	40	0.54	24	0.32	-	-
栃木県	29	0.40	1	0.02	46	0.96	145	3.02	62	1.29	4	0.08	8	0.17	25	0.52	1	0.02
群馬県	37	0.37	4	0.06	84	1.35	439	7.08	98	1.58	3	0.05	3	0.05	56	0.90	-	-
埼玉県	26	0.10	36	0.23	266	1.66	1143	7.14	341	2.13	12	0.08	78	0.49	137	0.86	-	-
千葉県	88	0.45	16	0.13	303	2.42	713	5.70	235	1.88	2	0.02	55	0.44	97	0.78	6	0.05
東京都	63	0.37	36	0.26	212	1.51	822	5.87	210	1.50	6	0.04	59	0.42	80	0.57	1	0.01
神奈川県	81	0.30	54	0.27	279	1.42	1327	6.74	383	1.94	9	0.05	77	0.39	133	0.68	1	0.01
新潟県	285	2.91	18	0.29	191	3.08	383	6.18	161	2.60	2	0.03	12	0.19	44	0.71	1	0.02
富山県	45	0.96	4	0.14	83	2.96	244	8.71	54	1.93	-	-	6	0.21	18	0.64	-	-
石川県	82	1.71	4	0.14	105	3.62	306	10.55	51	1.76	7	0.24	2	0.07	21	0.72	-	-
福井県	19	0.61	46	2.09	51	2.32	226	10.27	42	1.91	2	0.09	1	0.05	15	0.68	-	-
山梨県	24	0.62	1	0.04	22	0.92	97	4.04	36	1.50	-	-	9	0.38	5	0.21	-	-
長野県	97	1.10	6	0.11	91	1.65	342	6.22	142	2.58	3	0.05	12	0.22	30	0.55	-	-
岐阜県	60	0.74	74	1.40	32	0.60	137	2.58	59	1.11	21	0.40	14	0.26	22	0.42	-	-
静岡県	88	0.64	39	0.45	108	1.26	444	5.16	279	3.24	6	0.07	20	0.23	74	0.86	-	-
愛知県	92	0.47	44	0.24	242	1.33	763	4.19	397	2.18	74	0.41	36	0.20	122	0.67	-	-
三重県	57	0.78	22	0.49	82	1.82	409	9.09	121	2.69	11	0.24	18	0.40	30	0.67	-	-
滋賀県	20	0.39	6	0.19	28	0.88	148	4.63	35	1.09	4	0.13	7	0.22	14	0.44	-	-
京都府	20	0.18	16	0.22	49	0.66	493	6.66	102	1.38	11	0.15	24	0.32	30	0.41	1	0.01
大阪府	48	0.23	93	0.50	256	1.37	1192	6.37	381	2.04	21	0.11	32	0.17	116	0.62	3	0.02
兵庫県	84	0.44	138	1.08	137	1.07	952	7.44	306	2.39	10	0.08	26	0.20	100	0.78	1	0.01
奈良県	29	0.53	6	0.17	31	0.89	194	5.54	48	1.37	3	0.09	-	-	18	0.51	1	0.03
和歌山県	15	0.30	11	0.35	31	1.00	186	6.00	50	1.61	2	0.06	7	0.23	18	0.58	-	-
鳥取県	17	0.77	3	0.16	84	4.42	170	8.95	41	2.16	2	0.11	16	0.84	17	0.89	-	-
島根県	5	0.13	22	0.96	14	0.61	142	6.17	43	1.87	1	0.04	25	1.09	19	0.83	-	-
岡山県	7	0.09	19	0.35	41	0.76	327	6.06	91	1.69	4	0.07	5	0.09	32	0.59	1	0.02
広島県	19	0.17	43	0.60	86	1.19	664	9.22	147	2.04	2	0.03	14	0.19	35	0.49	-	-
山口県	16	0.26	11	0.22	114	2.33	444	9.06	123	2.51	1	0.02	12	0.24	39	0.80	-	-
徳島県	21	0.53	4	0.17	14	0.61	130	5.65	46	2.00	7	0.30	4	0.17	13	0.57	-	-
香川県	44	0.86	31	0.97	13	0.41	158	4.94	59	1.84	3	0.09	7	0.22	10	0.31	1	0.03
愛媛県	161	2.64	20	0.54	29	0.78	300	8.11	87	2.35	7	0.19	3	0.08	54	1.46	-	-
高知県	152	3.10	2	0.06	17	0.55	380	12.26	95	3.06	-	-	-	-	11	0.35	1	0.03
福岡県	43	0.32	53	0.45	232	1.95	946	7.95	386	3.24	15	0.13	61	0.51	112	0.94	6	0.05
佐賀県	-	-	22	0.96	22	0.96	138	6.00	98	4.26	3	0.13	10	0.43	24	1.04	-	-
長崎県	24	0.34	19	0.43	50	1.14	244	5.55	130	2.95	1	0.02	17	0.39	22	0.50	-	-
熊本県	10	0.13	12	0.26	42	0.89	358	7.62	151	3.21	4	0.09	63	1.34	39	0.83	-	-
大分県	24	0.41	22	0.61	62	1.72	455	12.64	112	3.11	3	0.08	13	0.36	43	1.19	1	0.03
宮崎県	14	0.23	30	0.81	76	2.05	678	18.32	150	4.05	-	-	8	0.22	44	1.19	1	0.03
鹿児島県	7	0.08	58	1.05	53	0.96	346	6.29	177	3.22	3	0.05	13	0.24	34	0.62	1	0.02
沖縄県	114	1.97	19	0.56	24	0.71	34	1.00	154	4.53	3	0.09	2	0.06	21	0.62	-	-

\*髄膜炎菌性髄膜炎は除く。

報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

2006年14週

	風しん		ヘルパンギーナ		麻しん (成人麻しんを除く)		流行性耳下腺炎		急性出血性 結膜炎		流行性角結膜炎		細菌性髄膜炎*		無菌性髄膜炎		マイコプラズマ 肺炎	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	13	0.00	197	0.07	9	0.00	4598	1.53	26	0.04	519	0.84	3	0.01	19	0.05	98	0.24
北海道	-	-	2	0.01	4	0.03	265	1.87	1	0.04	15	0.54	-	-	-	-	-	-
青森県	2	0.05	2	0.05	-	-	71	1.69	-	-	8	0.73	-	-	-	-	2	0.33
岩手県	-	-	3	0.08	-	-	33	0.85	-	-	11	0.92	1	0.05	1	0.05	3	0.16
宮城県	-	-	1	0.02	-	-	94	1.54	4	0.33	8	0.67	-	-	-	-	3	0.25
秋田県	-	-	7	0.20	-	-	22	0.63	-	-	2	0.29	-	-	-	-	3	0.43
山形県	-	-	-	-	-	-	58	1.93	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.10
福島県	-	-	4	0.08	-	-	113	2.31	1	0.08	21	1.75	-	-	-	-	1	0.17
茨城県	-	-	1	0.01	-	-	113	1.53	1	0.07	20	1.43	-	-	-	-	5	1.00
栃木県	-	-	-	-	2	0.04	43	0.90	-	-	11	1.00	-	-	-	-	1	0.14
群馬県	-	-	9	0.15	-	-	93	1.50	-	-	17	1.21	-	-	-	-	9	1.13
埼玉県	1	0.01	18	0.11	-	-	231	1.44	-	-	18	0.45	-	-	-	-	5	0.56
千葉県	2	0.02	-	-	-	-	125	1.00	3	0.09	19	0.59	-	-	-	-	1	0.14
東京都	-	-	15	0.11	1	0.01	115	0.82	1	0.07	4	0.29	-	-	-	-	7	0.35
神奈川県	1	0.01	2	0.01	-	-	217	1.10	1	0.03	50	1.28	-	-	1	0.14	2	0.29
新潟県	-	-	2	0.03	-	-	108	1.74	-	-	7	0.70	-	-	3	0.23	1	0.08
富山県	-	-	-	-	-	-	39	1.39	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	2	0.07	-	-	52	1.79	-	-	7	1.00	-	-	-	-	1	0.20
福井県	-	-	2	0.09	-	-	13	0.59	-	-	2	0.67	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	1	0.04	-	-	44	1.83	-	-	8	1.14	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	1	0.02	-	-	198	3.60	1	0.09	10	0.91	-	-	-	-	1	0.09
岐阜県	1	0.02	-	-	2	0.04	29	0.55	-	-	6	0.60	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	1	0.01	-	-	213	2.48	1	0.05	3	0.15	1	0.10	-	-	2	0.20
愛知県	-	-	5	0.03	-	-	198	1.09	1	0.03	20	0.57	-	-	-	-	2	0.15
三重県	-	-	4	0.09	-	-	79	1.76	-	-	7	0.58	-	-	-	-	2	0.25
滋賀県	-	-	-	-	-	-	14	0.44	-	-	-	-	-	-	1	0.14	-	-
京都府	1	0.01	-	-	-	-	57	0.77	-	-	2	0.13	-	-	-	-	1	0.17
大阪府	2	0.01	11	0.06	-	-	218	1.17	1	0.03	23	0.64	-	-	-	-	11	1.10
兵庫県	2	0.02	6	0.05	-	-	154	1.20	1	0.03	21	0.60	-	-	1	0.13	-	-
奈良県	-	-	1	0.03	-	-	24	0.69	-	-	8	0.89	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	63	2.03	-	-	1	0.25	1	0.09	-	-	1	0.09
鳥取県	-	-	7	0.37	-	-	64	3.37	-	-	-	-	-	-	1	0.20	1	0.20
島根県	-	-	1	0.04	-	-	33	1.43	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	88	1.63	-	-	8	0.67	-	-	-	-	2	0.40
広島県	-	-	8	0.11	-	-	102	1.42	-	-	33	1.74	-	-	5	0.24	9	0.43
山口県	-	-	13	0.27	-	-	220	4.49	1	0.11	4	0.44	-	-	-	-	3	0.38
徳島県	-	-	-	-	-	-	44	1.91	-	-	2	0.50	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	1	0.03	-	-	44	1.38	1	0.33	8	2.67	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	9	0.24	-	-	77	2.08	1	0.13	24	3.00	-	-	-	-	5	0.83
高知県	1	0.03	3	0.10	-	-	16	0.52	-	-	2	0.67	-	-	1	0.14	-	-
福岡県	-	-	13	0.11	-	-	126	1.06	1	0.04	26	1.13	-	-	2	0.18	3	0.27
佐賀県	-	-	3	0.13	-	-	33	1.43	1	0.25	2	0.50	-	-	-	-	5	0.83
長崎県	-	-	4	0.09	-	-	49	1.11	4	0.50	22	2.75	-	-	-	-	1	0.10
熊本県	-	-	19	0.40	-	-	54	1.15	-	-	22	2.44	-	-	-	-	2	0.13
大分県	-	-	8	0.22	-	-	81	2.25	-	-	3	0.60	-	-	-	-	2	0.18
宮崎県	-	-	3	0.08	-	-	95	2.57	-	-	9	2.25	-	-	1	0.14	-	-
鹿児島県	-	-	1	0.02	-	-	264	4.80	-	-	6	0.86	-	-	1	0.09	-	-
沖縄県	-	-	4	0.12	-	-	112	3.29	-	-	18	1.80	-	-	1	0.14	-	-

報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別 2006年14週

	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		成人麻しん		RSウイルス 感染症
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数
総 数	4	0.01	-	-	229
北海道	-	-	-	-	16
青森県	-	-	-	-	6
岩手県	-	-	-	-	1
宮城県	-	-	-	-	6
秋田県	-	-	-	-	10
山形県	2	0.20	-	-	3
福島県	1	0.17	-	-	4
茨城県	-	-	-	-	1
栃木県	-	-	-	-	1
群馬県	-	-	-	-	1
埼玉県	1	0.11	-	-	2
千葉県	-	-	-	-	2
東京都	-	-	-	-	2
神奈川県	-	-	-	-	4
新潟県	-	-	-	-	1
富山県	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	2
福井県	-	-	-	-	1
山梨県	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	4
静岡県	-	-	-	-	5
愛知県	-	-	-	-	3
三重県	-	-	-	-	6
滋賀県	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	2
大阪府	-	-	-	-	30
兵庫県	-	-	-	-	7
奈良県	-	-	-	-	2
和歌山県	-	-	-	-	3
鳥取県	-	-	-	-	1
島根県	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	19
広島県	-	-	-	-	8
山口県	-	-	-	-	13
徳島県	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	6
愛媛県	-	-	-	-	7
高知県	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	19
佐賀県	-	-	-	-	1
長崎県	-	-	-	-	3
熊本県	-	-	-	-	7
大分県	-	-	-	-	5
宮崎県	-	-	-	-	8
鹿児島県	-	-	-	-	2
沖縄県	-	-	-	-	5

## 獣医師が届出を行う感染症と対象動物

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2006年14週

	エボラ出血熱		マールブルグ病		ペスト		重症急性呼吸器症候群 (SARS)						細菌性赤痢		ウエストナイル熱		エキノコックス症	
	サル		サル		プレーリードッグ	イタチアナグマ		タヌキ		ハクビシン		サル		鳥類		犬		
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

感染症週報 第8巻 第14号 2006年4月21日発行  
発行：国立感染症研究所  
厚生労働省健康局結核感染症課  
厚生労働省大臣官房統計情報部  
事務局：国立感染症研究所感染症情報センター  
〒162-8640東京都新宿区戸山1-23-1  
T E L : 03-5285-1111  
F A X : 03-5285-1129  
U R L : <http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>  
<国立感染症研究所 感染症情報センター>  
<http://www.mhlw.go.jp/>  
<厚生労働省>  
<http://www.forth.go.jp/>  
<旅行者のための海外感染症情報(厚生労働省検疫所)>

本週報は、感染症新法に基づくものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所、検疫所の皆様のご協力を得て、国立感染症研究所感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には週報上にて訂正させていただきます。

「感染症の話」及び「読者のコーナー」の回答欄の内容に関する責は、それぞれの執筆者及び回答者に属しますが、内容に関するご質問、ご意見については事務局でお受けいたします。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。